

第 3 9 回
岡山県書写教育研究大会
真庭市学力向上推進事業研究発表会

研究紀要

研 究 主 題

基礎・基本をふまえて，生き生きと学ぶ子どもの育成

－ 自己の伸びを実感でき，
生活に生かす書写学習 －

平成 2 6 年 1 1 月 6 日（木）



真庭市立米来小学校

目次

校長 池田 晃

I 研究の概要

1	研究主題	_____	1
2	研究主題設定の理由	_____	1
3	研究主題について	_____	2
4	研究構想図	_____	3
5	研究組織	_____	5
6	研究経過	_____	6

II 研究の実践

1 書写の時間

(1)	授業研究部の取り組み	9
(2)	環境部の取り組み	1 2
(3)	低学年部の実践	1 5
(4)	高学年部（中学年）の実践	3 1
(5)	高学年部（高学年）の実践	4 2

2 生活に生かす単元づくり

(1)	授業研究部の取り組み	5 5
(2)	実践事例	5 8
(3)	各学年の実践	6 6
(4)	環境部の取り組み	7 9
(5)	成果と課題	8 2

Ⅲ 研究の成果と今後の課題 — 83

おわりに _____ 86

資料 基礎・基本を重視した指導項目一覧表
個人カルテ
書写アンケート

ごあいさつ

岡山県習字教育研究会
会 長 柴 原 靖 彦
(備前市立伊里小学校長)

校庭に舞う落ち葉に深まりゆく秋を感じる頃となりました。

さて、本日、平成26年度、第39回岡山県書写教育研究大会を真庭市立米来小学校において開催しましたところ、岡山県教育委員会、真庭市教育委員会から来賓の先生方をはじめ、県内各地より多数の先生方にご参会をいただき、誠にありがとうございます。

現在、学校現場では、『学力向上』に向けて、授業改善が進んでいます。子どもたちが課題をつかみ、課題解決に向けて考えたり話し合ったりするなかで、表現力や書く力を伸ばすことをめざす授業が増えています。書写学習においても、文字を正しく整えて書くための原理原則や紙面に合わせて文字を効果的に書くための方法を学ぶだけでなく、習得した知識・技能を学級新聞、パンフレット、報告書などの学習活動に活用していく指導が求められています。文字を正しく整えて丁寧に書く力は、学力向上に欠かせない能力です。特に、新出漢字の習得には、基本点画の書き方や文字の組み立て方の理解が大きく影響します。書写の時間に習得した文字を効果的に書く力が新しい知識・技能の習得や、相手や目的に応じた伝え合う活動に生かされ、自分の思いや考えを豊かに表現する活動に発展していくことが期待されているのです。

こうした時期に、米来小学校では、『基礎・基本をふまえて、生き生きと学ぶ子どもの育成 ― 自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写学習 ―』を研究テーマに、3年間にわたり、池田晃校長先生をはじめ諸先生方が一丸となって真摯に研究と実践を積み重ねてこられました。心より感謝申し上げます。

本日は、授業公開・研究発表などを通して、その研究成果をご紹介いただきます。また、岡山・倉敷管内の先生方に実践発表をしていただきます。指導法の工夫やちょっとしたアイデアなどが楽しみです。

記念講演では、『学力向上をめざす書写指導』という演題で、中央教育審議会国語専門部会委員や学習指導要領解説国語編の作成協力者などを歴任された山梨大学大学院教育学研究科教授宮澤正明先生にご講話をいただきます。書写教育の現状や国語科書写として学力向上に果たす役割などについてご指導いただけるものと期待しております。公私とも大変ご多用の中、3年前の第38回大会に引き続き、遠路はるばる岡山まで駆けつけてくださいました。心より厚くお礼申し上げます。

3年ごとに開催される本研究大会は、書写の授業を参観したり、研究実践を聴いたりできるまたとない機会です。本日お集まりの皆様方が、日々の実践の成果や課題を語り合い、明日からの書写教育に生かされることを願っています。

終わりにになりましたが、本研究大会のためにいろいろな面でご支援・ご指導を賜りました真庭市教育委員会の皆様方や真庭市内の先生方、本会研究部長の宮本毛登明先生をはじめ役員・理事の先生方にお礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

は じ め に

めまぐるしい経済発展と文化の多様化など社会の変化が急速に進む中、今日の社会を生き抜くためには、子供たちに「生きる力」基礎的・基本的な知識・技能の習得や活用して課題を解決する応用力、判断力、表現力などの育成が急務です。

現行の学習指導要領では、国語科について、「言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらき、学習の基本となる国語の能力を身に付けること。我が国の言語文化を継承・発展させる態度を育てることに重点を置くこと。」と示され、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力や互いの立場や考え方を尊重して言葉で伝え合う能力を育成すること、我が国の言語文化に触れて感性や情緒を育むことが重視されています。そして、書写の指導については、実際の日常生活や学習活動に役立つよう、内容や指導の在り方の改善を図ることが求められています。しかし、パソコンや携帯電話などの普及やICTの活用により、筆記用具を使って文字を正しく書く、手紙のやりとりをする、コミュニケーション能力の不足など今日的課題も多くなっています。

そんな中、平成24年度、県書写教育研究発表会会場校の依頼がありました。「書写の授業研究を通して、児童の学習規律の徹底や教職員の力量のアップにつながるのではないか。」と話し、本校で研究会を引き受けることになりました。実際に授業の研究をするのは担任ですから、担任の協力が不可欠です。当時の教務主任や研究主任には感謝の思いでいっぱいです。

当初、書写の授業はどうあるべきか、指導はどうやったらいいのか、どんな研究をしたらいいのか、情報交換をしたことはありませんでした。そこで、学習指導要領の研修から始めました。全員で読み深め、書写教育の在り方を考えました。また、前回研究会を開催された井原市立高屋小学校へ出向き指導を仰ぎました。更に、県習字教育研究会の先生方においていただき、研究の進め方や指導法について学びました。少しずつ取り組む方向性が固まり、研究主題を『基礎・基本をふまえて、生き生きと学ぶ子どもの育成』サブテーマを～自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写学習～とし、児童が主体的に学ぶ課題解決学習を柱に、学ぶ楽しさや成果が実感でき学校生活に生かせる指導はどうあるべきか、授業研究や教材の発掘・作成に熱が入っていききました。しかし、実際には、「良い姿勢が長続きしない。」「鉛筆の持ち方が悪い。」などの課題も多くありました。更に学習したことを日常生活で生かすということで、他教科のノート整理なども丁寧に行う事を指導していますが、なかなか徹底することはできませんでした。しかし、真庭市学力向上推進事業の一環としてもこの研究を進めていましたので、他校に授業を公開したり中学校区の取り組みも参考にしたりしながら、全体がひとつの方向に向かって取り組むことが定まってきたことは大変充実し有意義でした。教職員のコミュニケーションが深まり、ワークシートやパーツ作り、作品掲示など学校としての共通理解を図ることなど協働体勢が一層整ってきたことも学校としての組織の力が大きくなったように感じています。徐々に成果が現れつつあるのではないかと感じています。

まだまだ研究は半ばですが、この2年間の取り組みの一端をご紹介します。ご参会くださいました皆様から様々なご意見・ご示唆をいただき、それを糧にして子どもたちと共に更に実践を深めていきたいと考えます。

終わりにになりましたが、県習字教育研究会の役員の皆様や真庭市教育委員会指導主事の先生方をはじめ、この研究を支えていただきました多くの先生方からのご指導・ご助言を厚くお礼申し上げます。

今後共よろしくご指導賜りますようお願いいたします。

平成26年11月6日

真庭市立米来小学校長 池田 晃

I 研究の概要

1 研究主題

基礎・基本をふまえて、生き生きと学ぶ子どもの育成
—自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写学習—

2 研究主題設定の理由

(1)今日の教育的課題から

今日の社会は、科学技術の進歩や経済発展の恩恵を受け、豊かになるとともに、情報化、国際化、価値観の多様化、格差の拡大など、変化の激しい社会へと急速に進んでいる。そのような中で、子どもたちに求められる力は、生涯にわたって自分らしさを発揮して、心豊かに主体的に生きていくことのできる能力、いわゆる「生きる力」である。現行の学習指導要領では、「生きる力」を支えるものの一つとして「確かな学力」を掲げ、その重要な要素として、『基礎的・基本的な知識・技能の習得』『知識技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等』『学習意欲』『学習習慣』を示している。国語科においては、言語の教育としての立場をいっそう重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きて働き、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身につけること、我が国の言語文化を享受し継承発展させる態度を育てることに重点を置いている。それを受けて、書写の指導については、手紙を書いたり記録をとったりするなどの実際の日常生活や学習活動に役立つよう内容や指導のあり方の改善を図ることが求められている。

しかし、現在の社会においては、パソコンや携帯電話などの普及により、筆記具を使って文字を書くという営みが少なくなっている。思いを込めて手紙を書いたり、新年の挨拶を年賀状に手書きをしたりする人が減り、メールで物事を済ます社会的傾向がますます強くなっているのが現状である。そのために、コミュニケーション能力の不足や言語能力が低下してきていると言われている。

このような現状から、文字を手で書く活動は、社会全体の中で見直すべき喫緊の課題であると言える。そこで、書写の基礎基本を重視し、課題解決の学習過程や評価の工夫をしたり、学習したことを生活に生かしたりすることにより、生き生きと主体的に学ぶ子どもを育成したいと考えた。

(2)本校の教育目標から

本校の学校教育目標は、「豊かな人間性をもつたくましい児童を育成する」であり、「思いやりのある子」「よく考えてやりぬく子」「すすんで学ぶ子」「元気にあそぶ子」をめざす子ども像として具現化に努めている。特に「すすんで学ぶ子」については、「分かる、できる、楽しむ授業」の創造の中で、子ども一人一人が基礎・基本を身につけ、自分の課題解決に向かって考えたり応用したりすることができるような教育活動の充実をめざしている。

書写学習においても、自分の課題解決に向かって、めあてを持って意欲的に学習し、できるようになった喜びを感じたり、友達と認め合いながら向上していこうとしたりする気持ちが大切である。書写学習全般を学校教育目標具現化の場ととらえ、めざす子ども像に迫りたい。

(3)児童の実態から

真庭市の南東部にあり，国道１８１号線を挟んだ面積９．８平方キロメートルの学区で，米来小学校はその中央に位置している。産業団地，久世ICがあり，交通量も増えてきているが，通学距離は１．５キロメートル以内で，地域の方のパトロールによる見守りもあり，安全である。古墳群や多くの遺跡と古代条里制遺構を残す農村地帯で，自然も豊かである。学校と保護者・地域の連携も緊密に保たれている。



現在児童数は，１０７名で，学習やスポーツに積極的に取り組むことができている。児童を取り巻く環境は，テレビ，雑誌，パソコンなど様々な文字に出会う機会に恵まれている。しかし，その一方で伝統的な生活習慣，文化が廃れてきている。自分で文字を書く機会が少なくなっており，気持ちを込めて文字を書いたり正しく書いたりすることができにくくなっている。また，鉛筆を正しく持てない，姿勢が崩れやすい，文字の形や筆順を意識してかけない，長く集中して学習に取り組めないなど学力の向上を妨げるような気になる児童の実態がある。

書写アンケートの結果を見ると，書写の学習が好きな子が多い。しかし，「自分の字に自信が持てない児童が多い。」「友達のよいところを見つけている児童が少ない。」などの気になる結果も見られた。

このような実態をふまえ，姿勢，鉛筆の持ち方，筆順などの基礎・基本を身につけ，児童一人一人が，めあてを持って文字を書く楽しさを味わいながら主体的に学習に取り組み，自己の伸びを感じることができるようになることが大切であると考えた。そして，書写の時間に身につけた書写力を，書く活動や日常生活に生かし，学力向上につなげていきたい。

3 研究主題について

基礎・基本とは

「基礎・基本」とは，小学校学習指導要領・国語科の書写に関する事項に示されている各学年の内容である。具体的には，姿勢・執筆法・筆使いと基本点画・字形・筆順・配列・字配り等が主な指導事項である。これらの事項は文字を整えて書くための書写の要素であり，学年の系統を重視している。そうした技能面と用具・用材の使い方，及び字体や書式等の知識・理解，さらに，文字言語を大切にしたり，正しく整えて書こうとしたりする関心・意欲・態度，それらをすべて含めたものを基礎・基本と考える。こうした基礎・基本を身につけることによって，確かな書写力を育むことができると考える。

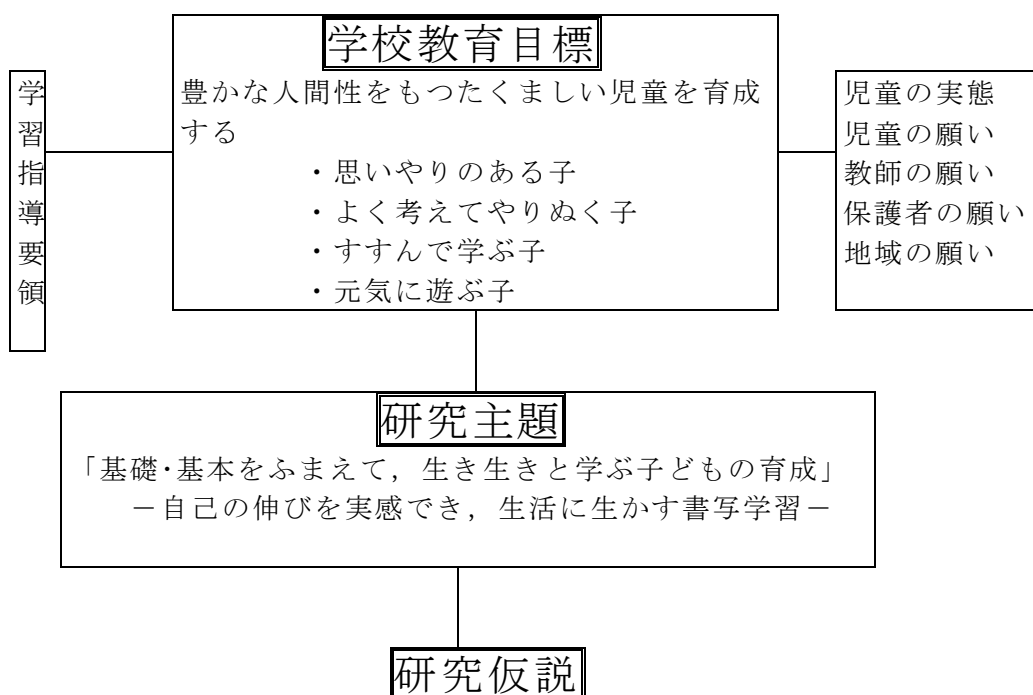
生き生きと学ぶとは

「生き生きと学ぶ」とは，書写学習において，子どもたち自らが課題を見つけ，解決に向けて真剣に学習する姿であるにとらえる。子ども一人一人が，自らの課題意識を持って学習していくと，それらを解決したり，書写力の向上に気づいたりして，学習の成就感を得ることができる。また，友達とよくなったところを認め合っ

たり、気をつけた方がよいところを教え合ったりして学び合うことで、共に高め合うことができる。このような学習の中で、子どもたちが書く喜びや楽しさを味わうことが、生き生きと学ぶことにつながると思われる。

また、書写の時間に学習したことを日常生活に生かすことが、生き生きと学ぶ子どもを育てるための重要な要素であると考ええる。

4 研究構想図



(1) 基礎・基本の重視	(2) 主体的な学習	(3) 自己の伸びを感じる 評価の工夫	(4) 生活に生かす工夫
文字を書くときの基礎基本がとらえられるよう、教材やその提示の仕方を工夫したり、年間計画を作成し、単元構成を工夫したりすれば、一人一人が基礎基本を身につけることができるであろう。	自分の課題を明確につかみ、自分に合っためあてを選んで進んで練習する学習過程を工夫したり、より効果的な教具や学び合いの場を工夫したりすれば、一人一人が主体的に学習できるであろう。	自分が上達したところを見つけたり、友だちの良さを認め合ったりする評価活動を工夫すれば、上達した喜びを味わうことができ、一人一人が自分の伸びを感じることができるであろう。	他の教科や行事と関連させて、書写の時間に学習したことが役に立ったと感じることができ、一人一人が生き生きと学び、身につけた書写力を生活に生かすことができるようになるだろう。

研究内容

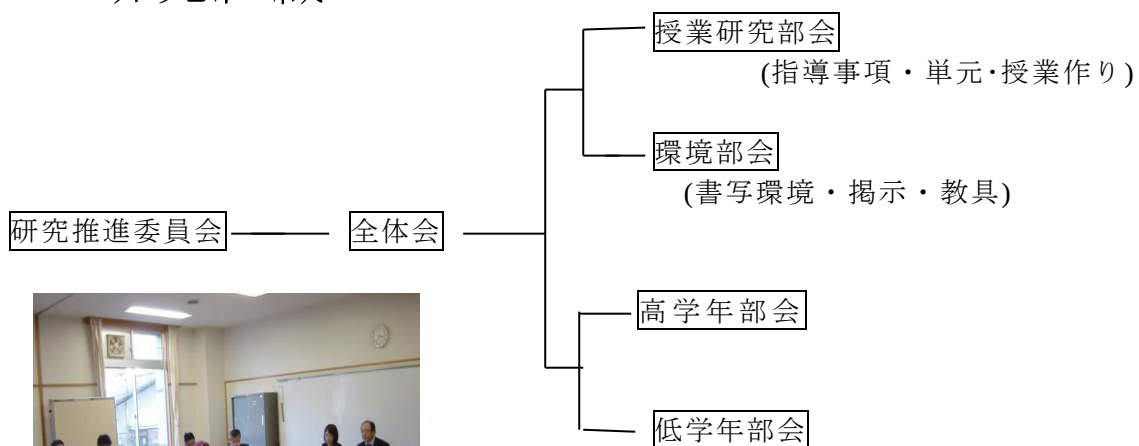
(1)	(2)	(3)	(4)
○書写の基礎・基本を捉えさせるための工夫 ○教材の精選 ○基礎・基本が定着できるようにするための年間計画の作成と単元構成の工夫 ○正しい姿勢と正しい鉛筆の持ち方の定着	○主体的に学ぼうとする学習の流れの工夫 ○自分の課題にあっためあてを明確につかませる工夫 ○自分のめあてに合った練習方法の工夫 ○より効果的な教具や学び合いの場の工夫	○自己評価の工夫 ○相互評価の工夫 ○教師による評価の工夫	○教科・行事との関連 ○日常化 ○学習したことを生かす活動を取り入れた単元構成の工夫 ○書写環境の工夫

めざす児童像

	(1)	(2)	(3)	(4)
低学年	姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書こうとする子ども。	自分のめあてを持って、進んで学習しようとする子ども。	めあてに対して、自分が上達していることに気づき、喜んで書こうとする子ども。	正しく丁寧に文字を書き、落ち着いてどの学習にも取り組もうとする子ども。
中学年	点画の種類を理解するとともに、文字の組み立て方、漢字や仮名の大きさ、配列や	自分の課題を見つけて、めあてと決するための練習方法を選び、進んで学習しようとする	めあてに対して、自分や友だちがよくなっているところを見つけ、お互いに上達しているこ	整った文字で書くことに喜びを見つけ、どの学習でも書く活動を大切にし、集中して学

	筆圧などに注意して、形を整えて書こうとする子ども。	子ども。	とを認め合い、意欲的に書こうとする子ども。	習しようとする子ども。
高学年	目的に応じた筆記具を選び、用紙全体との関係から、文字の大きさや配列などを決め、点画のつながりや書く速さを意識しながら書こうとする子ども。	自分の課題を見つけて、めあてを持ち、解決するための練習方法を工夫したり、お互いに教え合ったりして考えながら練習しようとする子ども。	めあてに対して、自分や友だちの上達を認め合い、いろいろな場で自信を持って書こうとする子ども。	いろいろな場面で、学んだことを生かして文字を書き、豊かな表現を考えようとする子ども

5 研究組織



6 研究経過

実施月日	研 究 内 容
平成 24 年 10 月 29 日(月) 11 月 1 日(木) 12 月 5 日(水)	先進校視察 愛知県西尾市立津平小学校 1 名 先進校視察 井原市立高屋小学校 3 名 全体研修 先進校視察報告
平成 25 年 1 月 30 日(水) 3 月 6 日(水) 3 月 13 日(水)	全体研修 「新しい学力観にたつ書写指導について」 講師 県習字教育研究会会長 柴原 靖彦校長先生 県習字教育研究会研究部長 宮本毛登明先生 授業公開 書写校内提案授業 3 年 全体研修 研究の実践のまとめ(算数)と反省・来年度に向けて 書者アンケート
平成 25 年 4 月 4 日(木) 5 月 8 日(水) 5 月 29 日(水) 7 月 3 日(水) 7 月 30 日(火) 8 月 21 日(水) 8 月 22・26・27 日 8 月 28 日(水) 10 月 10 日(木) 10 月 17・18 日 10 月 21 日(月) 11 月 20 日(水)	全体研修 研究主題について 全体研修 研究仮説・内容・めざす子ども像について 個人カルテ作成 全体研修 環境部・授業研究部提案 研究授業 校内研究授業 5 年 指導助言 宮本毛登明先生 実技研修 中学年の内容 講師 柴原靖彦校長先生 宮本毛登明先生 実技研修 低・高学年の内容 講師 柴原靖彦校長先生 宮本毛登明先生 教具作成 教職員と保護者ボランティア 全体研修 夏季休業中の研修のまとめと共通理解 研修視察 岡山市書写教育公開授業(甲浦小学校)3 名 研修視察 全日本書写書道教育研究会(千葉大会)1 名 研究授業 真庭市学力向上事業久世中学校区公開授業 1 年, 3 年 指導助言 柴原靖彦校長先生 宮本毛登明先生 研究授業 真庭市学力向上事業久世中学校区公開授業 4 年, 6 年 指導助言 柴原靖彦校長先生 宮本毛登明先生 真庭市教育委員会 畝田あゆみ先生
平成 26 年 2 月 4 日(火) 2 月 19 日(水) 3 月 12 日(水)	研究授業 校内研究授業たいよう学級 研究授業 校内研究授業 2 年 書写アンケート・個人カルテ 全体研修 研修の実践のまとめ

平成 26 年			
4 月	9 日 (水)	全体研修	研究の概要・計画について
5 月	7 日 (水)	全体研修	環境部・授業研究部提案
6 月	4 日 (水)	研究授業	校内研究授業 4 年
6 月	12 日 (木)	研究授業	校内研究授業 3 年
6 月	19 日 (木)	研究授業	校内研究授業たいよう学級
6 月	23 日 (月)	研究授業	校内研究授業 5 年
6 月	25 日 (水)	研究授業	校内研究授業 2 年, 6 年
		指導助言	柴原靖彦校長先生 宮本毛登明先生 真庭市教育委員会 田村 知之先生
7 月	1 日 (火)	研究授業	校内研究授業 1 年
7 月	9 日 (水)	全体研修	研究のまとめ方について 書写アンケート
8 月～9 月		各部会研修	研究のまとめ検討・公開授業指導案検討
10 月		公開授業準備・環境整備	
11 月	6 日 (木)	第 39 回	岡山県書写教育研究大会



Ⅱ 研究の実践

書写の時間

(1) 授業研究部の取り組み

① 基礎・基本の重視

○ 基礎・基本を重視した指導

授業研究部では、書写の基礎・基本について研修し、指導内容を検討しながら、どの学年で何を押さえて指導すればよい一覧表（資料1）にまとめていった。

それをもとに、児童が身につけなければならない基本点画（縦画、横画、左はらい、右はらい、曲がり、折れ、そり、点、始筆、終筆、送筆など）を用語とともにどの学年で指導しなければいけないかを明確にし、授業の中で教師が繰り返し用いたり、板書等の工夫をしたりするようにした。また、発表の中で児童が用いることができるよう、繰り返し発表の仕方を指導した。

縦書き、横書きの文章の書き方についても指導するポイントをはっきりと学年ごとに示し、書写の時間以外でも指導するように努めた。

夏季休業中には、教員の実技研修を行い、基礎・基本について技術面での共通理解を図るようにした。



○ 個人カルテを活用して

一人一人の技能の状況を把握し、書写技能を高めるために必要な全体指導・個別指導を書く活動で行うようにした。技能の把握には、必要な項目（資料2）を決め、評価基準（資料3）を設けて授業中の観察やトライ＆チャレンジ（資料3）で評価した。クラスの一覧表（資料4）にまとめ、個人だけでなくクラスの傾向もわかるようにした。クラスの傾向に合わせて単元を作り、全体で指導したり、書く活動の中で個別に指導したりして技能の向上を図った。

○ 書写の帯学習の設定

「視写する」ことは、文字を正確に早く書く練習になり、学習の中で必要な技能であると考え。しかし、どの教科の授業時間でもその時間をとるのは難しい。そこで、朝学習としておこなっている時間の毎週木曜日を視写の日として、各学年の発達段階に応じて工夫して行うようにした。

② 主体的な学習

○ 書写学習の基本的な学習過程

「手本の字をよく見て書きなさい。」「このように書くんだよ。」というような習い事のような授業から、自らめあてを持ち、主体的に書写の学習に取り組めるようにするために、課題解決学習を取り入れることにした。児童が学習を進める中で、はっきりした目的意識を持ったり、自分で選んだり決めたりする場面を設定することは、児童の学習意欲を高め、進んで学習に取り組むことにつながると思われる。

そこで、書写の基本的学習過程を「つかむ・考える→解決する→確かめる→生かす」とし、児童にも学習の流れを知らせることで、見通しを持って学習を進めることができるようにした。

課題解決型の展開

1 単位時間における書写の基本的学習過程

1 つかむ・考える

文字の基準を知り、課題をもつ段階

①題材を知る。（興味、関心、学習意欲の喚起。）

②試し書きをして、手本と比べ、気づきを伝え合う。

③文字の基準を話し合いながら発見する。



④本時の課題を明確にする。

- ・発見した文字の基準と試し書きを比べながら、教師の説明（範書）を参考にして、題材のねらいに合った全員の共通課題を明確にする。（試し書きと手本を比べながら個人の課題を設定する時間もある。）

2 解決する

課題を解決する方法を考え、

練習と自己批評をくり返す段階

- ・課題解決のための方法を考える。教師の説明や教科書から学びを深める。
- ・様々な練習シートや教具を活用し、ポイントを絞った練習をする。
- ・練習と自己批評（ときには相互批評）をくり返す。
- ・新たに生じた課題に対しても、その解決のために練習したり、確かめたりする。

3 確かめる

課題が解決できたかどうか確かめる段階

○本時のまとめ書きをする。

- ・試し書き（前時のまとめ書き）と本時のまとめ書きを比べながら，課題が解決できたかどうか自己評価（相互評価）する。
- ・毛筆で学習した本時のめあてを生かして，硬筆でも書いて確かめる。
- ・他の文字へ広げて原理・原則を確かめる。

4 生かす

学んだことを生かす段階

○学んだことを生かす。

- ・国語科「書くこと」「言語活動例」への関連づけ
- ・各教科への関連づけ
- ・特別活動への関連づけ
- ・日常化

③ 自己の伸びを感じる評価

書写アンケートの結果を見ると，自分の文字に自信がない児童が多かった。書写の時間や他の書く活動でも，きれいに書けているときはほめてきたのだが，自信が持てないままの児童が思ったより多いことに気づくことができた。

児童に達成感を持たせ，自信につなげていくために評価を工夫する必要があると感じた。そこで，今までの書道的観点から字の上手下手を評価するのではなく，本時の評価の観点（学習課題）を明らかにし，そのほかの部分の字形が整っていなくても○にするという評価を取り入れていくことにした。教師は，練習中や事後の作品で目標と照らし合わせながら評価していくのである。そして，自己評価や相互評価を取り入れ，学年の発達段階を考慮してそのあり方を工夫するようにした。

【自己評価】

確かめる活動の中で，めあてを確認させ，試し書きとまとめ書き，前時のまとめ書きと本時のまとめ書きとを比べることで自分の作品の伸びを見つけるようにした。自分の伸びを見つけやすいように振り返りカードなどで工夫した。

【相互評価】

お互いに上達を認め合い，学習意欲を高めるようにするためにめあてを確認しながら，ペアまたはグループ，同じ課題のグループ，全体などで見合い，互いによくなっているところを見つけるようにした。友達のめあてがよくわかるように振り返りカードを工夫したり付箋紙に感想を書いて貼ったりするなどの工夫をした。

(2) 環境部の取り組み

①毛筆の準備・片付け

○机上の整理

学習がしやすいように、道具を置く場所を決め、徹底している。右記の写真をラミネートしておき、各教室に置いている。学年はじめは、これを使って確認をしている。

墨滴・ペットボトル↓



すずりの右に筆を置く←

〈 道具の置き方 〉

○書写バック

新聞を A2 サイズに切り、半分に折ったものを厚紙ではさみ、つづりひもをつける。それを机の横にかけておき、練習した半紙を新聞紙にはさんでいる。新しい半紙は机の中に入れておき、一枚ずつとり出す。スムーズに練習用紙を換えることができるようになったため、練習時間の確保ができるようになった。また机の横へ掛けることで、机間指導もしやすくなる。3年生の1学期に作れば、卒業まで使うことができる。



〈 右ききの児童は左にかけると使いやすい 〉

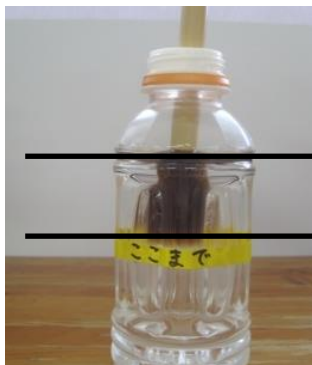
○ペットボトル筆洗い

300mL 程度の口の広いペットボトルに水を入れたものを一人一つ準備している。その中で筆を洗うことで、床に水が散ることがなく、片付けを楽に行える。また順番を待つこともないので、時間も短縮できる。使った後は、ペットボトルの中を軽く洗い、黒い線まで水を入れて箱へ戻す。筆はかごへ集めておき、放課後に教師が洗い直す。こうすることで、筆を長く良好な状態で使うことができる。

小筆は、穂先を軽く水につける程度にし、児童が各自で保管するようにしている。



〈 箱へまとめて入れておく 〉



〈 穂先はテープを貼ったところまで入れる 〉

水

穂先

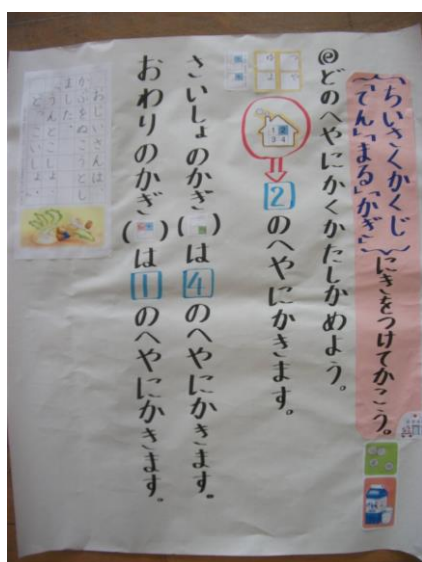


〈 筆はかごや箱へ集め、放課後に教師が洗う 〉

②教室環境

教室には、今までに習ったことをまとめて掲示している。例えば、1年教室には、「おれ」や「とめ」などの用語、4年生以上の教室には題材のポイントをかたんにまとめて掲示している。そうすることで、児童が自分のめあてをもつ際に、児童自身で確認ができるようにしている。習ったことがその都度確認できるので、既習事項が生きた学習となってくる。またより焦点化しためあてをもつことができるようになった。

これを書写の学習だけに終わらせるのではなく、日常場面でも意識して書くことができるようにしていきたい。



〈 1年生:「とめ」など用語と意味を習ったものを順次掲示していく 〉



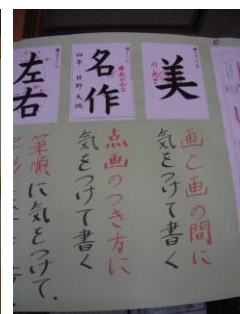
〈 2年生:おれやまがりを床にビニールテープで貼っておく。休み時間にも歩いたりしている。 〉



〈 3年生:筆遣いのポイントをまとめる 〉



〈 4年生以上:練習した文字とポイントをまとめる 〉



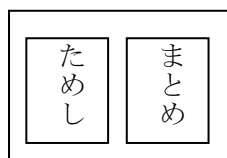
③作品掲示

○毛筆掲示

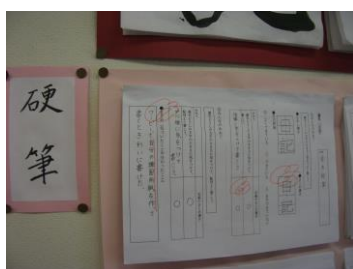
作品は、試し書きとまとめ書きを並べて掲示している。他者との比較でなく、自分の成長を感じることができる。また要点を押さえて書くことの重要性にも気づくことができる。実際、字が得意でない児童も、比べることで「うまくなった」と感じることができているようだ。

○硬筆掲示

硬筆は、ワークシートを掲示している。掲示スペースに余裕があれば、ファイルをそのまま貼り、綴じていく方法もある。1年の最後に学習の足跡として返却することができる。



〈 左が試し書き、右がまとめ書き 〉



〈 硬筆のワークシート 〉

〈 低いところへ貼れば、児童でも
綴じられる 〉

④書写教具コーナー

書写に必要な教具（点画ピース、筆ペン、モールなど）は全学年まとめて保管している。1度作れば、その都度作る必要がないため、教材準備に時間がかからない。作成は、夏休みに保護者の方にボランティアとして協力していただいた。



〈 全学年分、教材ごとに分けて保管する 〉



〈 筆ペンや墨液なども一緒に保管 〉

(3) 低学年部の実践

① 基礎・基本を重視した取り組み

○「正しい姿勢」と「用具の持ち方」および「筆順」などの基礎的な事項を定着させる工夫

- ・書字活動に取り組みやすくするために、6B鉛筆や書写（硬筆）用の下敷きを準備した。



姿勢ペンダント

- ・正しい鉛筆の持ち方ができない児童がいるため、矯正用具を準備し書く活動で使用するようにした。また、隣接の幼稚園にもお願いして正しい鉛筆の持ち方の意識付けができるようにしてもらった。

- ・筆順の定着を図るために、色分けによって筆順を示した。特にひらがなやカタカナでは、色分けした筆順カードを示すことにより筆順が分かりやすくなり、意識して書くようになった。国語の時間や朝学習の時間と関連させながら、定着を図るようにした。



- ・「とめ」「はね」「はらい」などの書写用語を理解するために、「とん」「びょん」「すうっ」など様子を表す言葉をうい児童がイメージしやすくした。また、床面にテープを貼りその上を歩いて「はね」や「はらい」を体感させた。

○低学年における文字の基準を明確にするための工夫

- ・文字の筆順
- ・文字の外形
- ・文字の中心
- ・文字の基本点画の書き方



② 主体的な学習にするための取り組み

○めあてを明確につかませる工夫

試し書きをした後、手本と比べてどこをどのようにすれば手本のような字に近づけるかを考えた。字形の整っていない字や中心のずれた字を「正しい文字あてクイズ」を通して認識し、話し合い手本と比較して全体でのめあてを確認するようにした。また、外形シートを当てたり、友達の字と比べたりして個人のめあてをつかませるようにした。



〈外形透明シートを使って〉

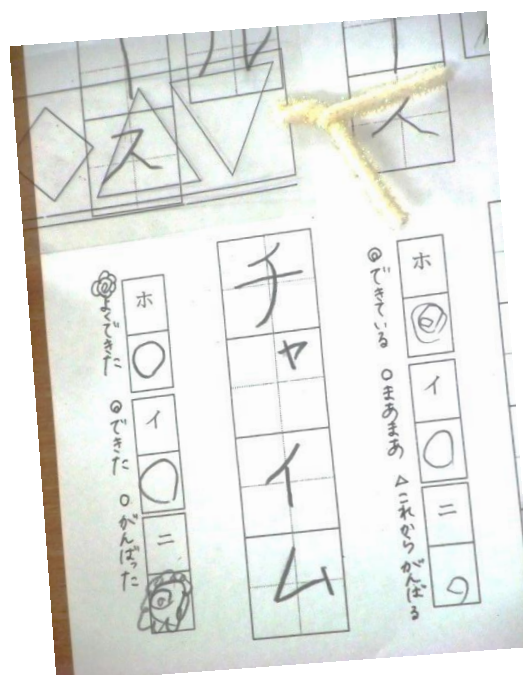
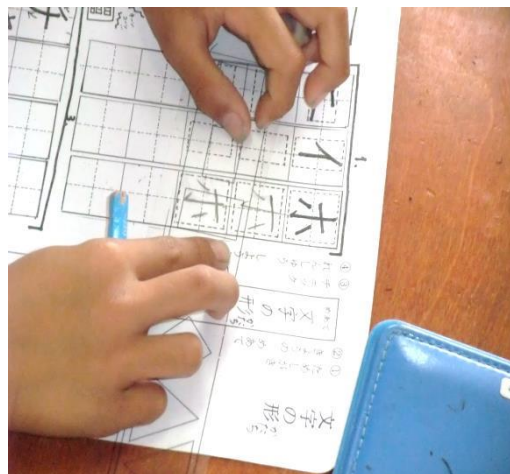
〈正しい文字あてクイズ〉

○めあてにあった練習方法の工夫

課題を解決するために練習用紙、振り返り用紙などを1つにした「のびのびシート」を使った。また、「とめ」「はね」「はらい」などの書写用語を意識するために低学年共通の合言葉を使った。練習のための用紙も進度によって選択できるように工夫した。



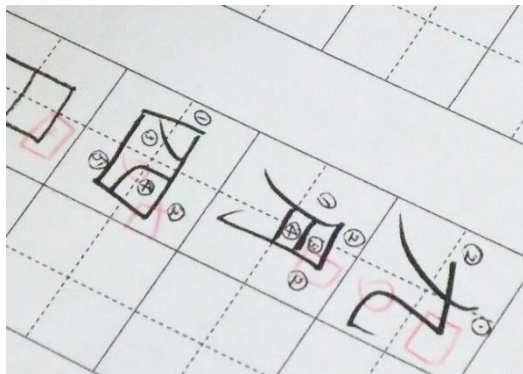
〈モールで点画を確認〉



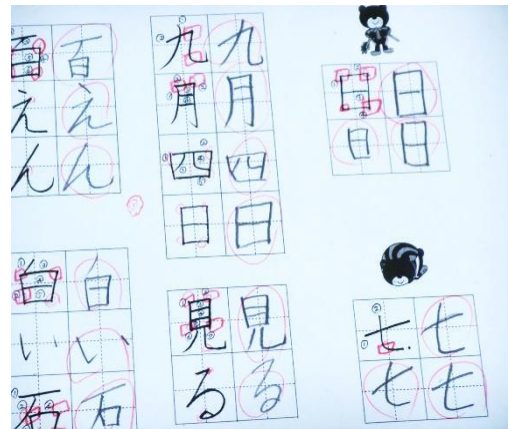
〈学習カードの工夫と外形シート〉

○自己批評・相互批評の工夫

低学年では、自己批評を中心に行っている。自分のめあてが達成できる手立てとして外形シートを使い確認した。シートを使うことで容易に見直しができた。また、教師が机間指導で赤ペンを入れ確認したり、書画カメラで文字を写し、児童に基準を示した。



〈ポイントを赤字で〉



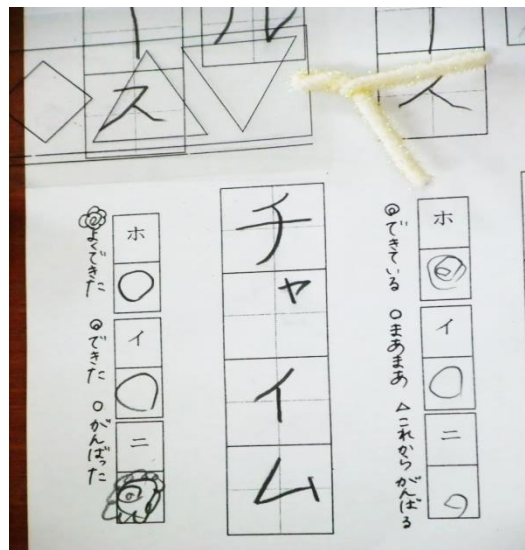
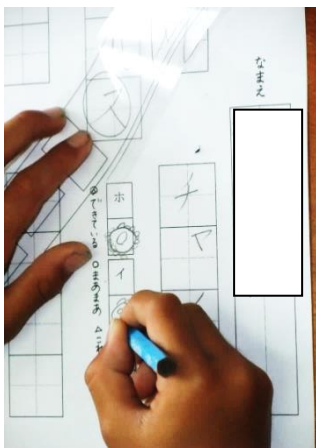
〈称揚や助言〉

③ 自己の伸びを感じることでできる評価の取り組み

学習を確かめる段階で、「のびのびシート」やシールなどを使って「自己評価」や「相互評価」をするようにした。この活動を取り入れることで、自分の伸びに気づいたり友達のがんばりに目を向けたりすることができるようになった。書画カメラを使用して全員に提示することで友達からのメッセージももらえ、成就感や満足感を味わうことができた。また、教師が児童の伸びを把握して伝えることで書写の日常化や意欲の継続につながるようにした。

○めあてを達成したことがよくわかる自己評価の工夫

- ・ 1枚の学習カード「のびのびシート」に試し書きとまとめ書きをすることで、1時間の学習の流れや変化を実感できるようにした。
- ・ 試し書きとまとめ書きの字を比べて「よくできた。」「できた」「がんばった」の3項目で自己評価させた。



試し書きとまとめ書きの自己評価とを比べることで自己の伸びを実感することができる。

○自分に自信が持てるようになる相互評価の工夫

- ・ 友達の字でよくなったところを見つけ、書画カメラを使ってクラス全体に紹介した。
- ・ 自己評価の低い児童を取り上げ全体場で称揚し、達成感を持たせた。
- ・ 「自分の字を紹介してもらいたい。」という児童の思いを汲んで書画カメラを使った相互評価の時間を多くとるようにした。

書画カメラで、めあてをクリアした児童のまとめ書きに赤ペンを入れて紹介した。児童の次時への意欲づけになった。



友達から良いところを言ってもらえると、とっても良い気分になれるから不思議です。



【実践事例 第1学年】

第1学年 国語科(書写) 学 習 指 導 案

平成26年 7月1日(火) 第3校時

1 単元名

ひらがなのくしゅう 「じの かたち」

2 単元目標

○姿勢や鉛筆の持ち方に気をつけて意欲的に学習しようとしている。

(意欲・関心・態度)

○ひらがなの外形の違いについて考えることができる。

(思考・判断)

○ひらがなの外形をとらえ、気をつけて正しく書くことができる。(知識・理解・技能)

○ノートや自分の名前の文字も、外形に気をつけて書くことができる(書写の日常化)

3 指導上の立場

(1) 単元について

この単元は、ひらがなの外形の違いを理解し、字形に気をつけて書くことをねらいとしている。そこで、ひらがなの形をしかくやまる、さんかくなどのおおよその形に囲む学習を通して、それぞれのひらがなの外形の違いに気づかせることが大切になる。教科書の教材語句を提示し、どのような外形なのか考え発表することで外形の違いを捉えさせたい。そして、外形を意識させながらひらがなを語句や文の中でも字形を整えて正しく書き表すことができるようにしていきたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、男子10名、女子5名である。4月よりひらがな学習をしてきた。毎日習うかな文字が楽しみで意欲的に学習に取り組んできた。学習の始まりでは、「よいしせいのかいことば」として唱え、姿勢と鉛筆の持ち方を確認し、意識づけをしてからひらがな学習を行った。ひと通りのかな文字指導は終えたが、ひらがな一文字一文字の「とめ」「はね」「はらい」「まがり」「おりかえし」「むすび」などの書き方を十分意識して書けない児童もいる。また筆順も正しく認識できていなかったり、文字の形をとることができなかったりする児童もおり、なぞり書きをさせながらひらがなの練習を繰り返している。

こうした児童の実態から、本単元の目標にせまるために教科書の教材語句の外形について認識したり、正しく書いたりした後、五十音表を用いて外形をさらに確認させることや、自分の名前を外形の違いを意識しながら書くことに時間をかける必要があると考えている。1年生のこの時期は、日常的に書写で学んだことが生かせる時期なので繰り返し送筆や終筆も意識させながらかな文字に興味を持たせ正しく書けるようにしたい。

(3)

本校の研究主題である『基礎・基本をふまえて、生き生き学ぶ子どもの育成一自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写学習一』に迫るために次のような手立てをしていきたい。

- ・主体的に学び、日常化の図れる工夫

「ペタ・ピン・グー」を合言葉にして正しい姿勢を意識できるようにする。

書くときは鉛筆ホルダーをつけ、正しい鉛筆の持ち方を意識できるようにする。

- ・基礎基本を身に付けさせる工夫

外形シートを使ってひらがなの外形に気づかせる。

ていねいに書いたり,一生懸命書いたりすることをしっかり賞賛し認めることで日常生活でも丁寧に正しく書こうとする態度を養う。

- ・伸びを実感できる自己評価と相互評価

「ためしがき」と「まとめがき」を見て自分の書いた字の違いに気づく。

書画カメラを利用して友達の字の良さに気づき自分に生かそうとする。

4 単元計画（全2時間）

第1時 教科書のひらがなの外形をとらえ正しく書くことができる。（本時）

第2時 自分の名前やひらがなのひょうの文字を外形に気をつけて書くことができる。

5 本事案

目 標	ひらがなの外形をとらえ,気をつけて書くことができる。	
学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 学習のめあてをもつ。 (1) 試し書きをする。 (2) 教科書文字のように書くためにはどうしたらよいか考え,めあてをもつ。	○「はる」「なつ」「あき」「ふゆ」を書くことを伝え,空書きして確認させる。 ○「はる」「なつ」「あき」「ふゆ」の試し書きをさせる。 ・鉛筆ホルダーをつけて,正しい持ち方と姿勢で書かせる。 ○試し書きと教材の違いに気づかせる。 ・外形シートの「○△□」を教材文字に当てはめ話し合う活動を通して,外形を意識できるようにする。 ・ひらがなは,おおまかに5つに分けることができることを知らせる。 ○自分の試し書きが,外形にあっているか外形透明シートで調べ,めあてをしっかりとらせる。	○意欲的に話し合いに参加しているか。
2 外形に気をつけて練習する。	じのかたちにかきをつけてかこう。 ○「○△□」の外形を書き入れた練習用紙に,字形を意識しながら練習させる。 ・外形を書き入れていない練習用紙も使い,書き慣れるようにする。	

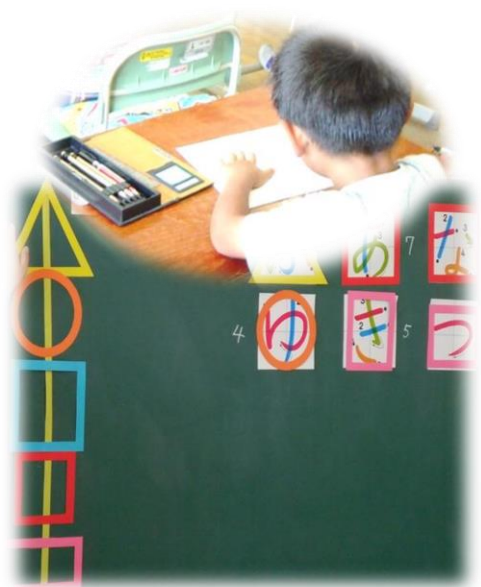
3 まとめをする。	○外形に気をつけてまとめ書きをさせる。 ・まとめ書きで書いた文字の形を外形透明シートで確認させる。 ・外形に気をつけて書くと字形が整うことを確認させる。 ・試し書きと比べて  ◎ ○ で自己評価させる。 ・基準に照らして自己評価させる。 ・書画カメラで上達した児童の文字を見て,みんなでよさを認め合い,次への意欲につなげる。 ○次時の学習を知らせる。 ・ひらがな五十音の外形あてクイズをしたり,自分の名前の外形さがしをしたりすることを知らせる。 ・日常生活の中で,書写の活動が生かされていることに気づかせる。	○文字の外形を理解して,気をつけながら正しく書くことができたか。 (知識・理解・技能)
------------------	--	---

6 成果と課題



また, 毎時間姿勢図や鉛筆の持ち方を掲示し意識できるようにした。

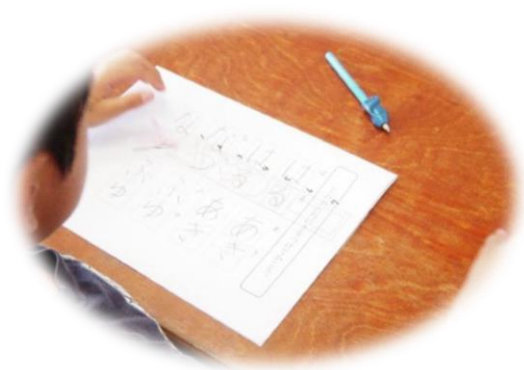
・正しい姿勢の持続に向けては, 授業中も声をかけて意識しながら学習できるようにした。筆箱の置く位置や教科書の位置なども約束事として4月から指導してきたので,左手を置く位置も状況に応じて変えることができるようになり,用紙を押さえることもスムーズにできていた。従って姿勢の崩れは少なくなっている。鉛筆ホルダーを使用することで, 正しい鉛筆の持ち方ができるようになった児童が増えた。



・ひらがなの外形の種類を「おでんのず」として示すことが児童の興味や関心をひいた。また、外形シートを使って教材語句の外形を確かめたり、練習文字の外形を確かめたりするのは有効であった。本時はワークシートをみの練習になってしまい、児童が見通しを持ってより主体的に練習できるようにするためには、多様な練習方法を用意する必要性を感じた。



・「のびのびカード」に試し書きとまとめが書きを並べて書いたり、外形シートを置いて確かめたりすることで、自分の字の上達をはっきりとつかめるようにした。練習途中でも外形シートを使えば自己批評がしやすかった。また、書画カメラを使って友達の字の良さに気づくことで自分もそれに近づこうとする異様がみられた。自己評価の低い児童の字を意識的に取り上げ友達に見せ、良いところを見つけ合うことで自己肯定感が高まった。



第1学年 国語科(書写)学習指導案
平成25年10月21日(月) 第4校時

1 単元名 かん字の学しゅう 「かくのとちゅうのかきかた」

2 目 標

- 姿勢や鉛筆の持ち方に気をつけて、意欲的に学習しようとしている。
(意欲・関心・態度)
- 漢字の送筆「おれ」「まがり」「そり」の書き方について考えることができる。
(思考・判断)
- 漢字の送筆「おれ」「まがり」「そり」の書き方を理解し、正しく書くことができる。
(知識・理解・技能)
- ノートや自分の名前の文字も、漢字の学習を生かして書こうとすることができる。
(書写の日常化)

3 指導上の立場

(1) 単元について

この単元は、1年生がはじめて漢字に出会い、漢字学習の意欲がとても高い

時期に設定された単元である。漢字は、直線的な点画の組み合わせで構成されている。ひらがなの学習の基本である「とめ」「はね」「はらい」などの書き方は漢字と同じ学習要素であり、漢字の学習の成果が日常生活における書写活動へ応用できることになる。学習成果の日常化を意識づけることによって、ふだんのノートや連絡帳、日記などに書く「おれ」「まがり」「そり」のある漢字、自分の名前の漢字などに生かしていく力を育てていきたい。

(2) 児童の実態（男子16名、女子9名）

本学級の児童は、1学期のひらがなの学習では、毎日習うかな文字が楽しみで意欲的に学習することができた。かな文字が終わると、「先生、次はかたかなじゃろう。」「漢字はいつから習うん？」と文字が書けるようになったことが嬉しく、さらにかたかな・漢字の学習への意欲がみられた。

かな文字を丁寧に書くことが定着しつつある児童は5人程度。毎日かな文字を書くことによって筆圧のあるていねいな文字が書けるようになりつつある児童も増えてきている。しかし、終筆「とめ」「はらい」「はね」や送筆「おれ」「まがり」・書き順の定着しにくい児童もいる。また、基本となる正しい姿勢や鉛筆の持ち方も十分身につけていない。文字の形をとることができにくい児童には、色鉛筆で下書きをしてなぞらせている。

漢字を学習し始めると漢字が好きで意欲的に書くことはできる。間違った送筆や接筆を示すと、どこが間違っているかなど指摘することができるが、実際に書くと送筆や接筆がうまく書けなかったり、正しい書き順で書けなかったりすることも多い。そこで、できたことや伸びをしっかりと言葉にして称賛し、「おれ」「まがり」「そり」の違いを意識して正しく書いたり、日常生活でもていねいに文字を書いたりしようとする態度を養うことができるようにしたい。

(3) 研究テーマとの関連

本校の研究主題である『基礎・基本をふまえて、生き生き学ぶ子どもの育成—自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写学習—』に迫るために次のような手立てをしていきたい。

- ・正しい文字あてクイズやモールを使って「おれ」「まがり」「そり」の違いや正しい接筆に気づかせる。
- ・形のとりにくい児童には、色鉛筆で下書きをしてやりそれをなぞることで自信を持って漢字が書けるようにしていく。
- ・「ピン・ピタ・グー」を合言葉にして正しい姿勢を意識できるようにしていく。
- ・書くときには鉛筆フォルダーをつけ、正しい鉛筆の持ち方を意識できるようにしていく。
- ・まとめ書きと試し書きと比べて自己評価や相互評価することによって、上達した喜びを味わうことができるようにする。
- ・ていねいに書いたり、一生懸命書いたりしたことをしっかりと称賛していくことで、日常生活でもていねいに正しく書こうとする態度を養うことができるようにする。

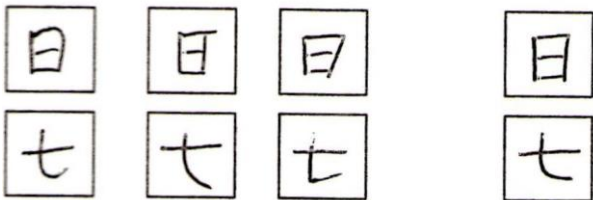
4 指導計画（全2時間）

第1時 「おれ」「まがり」のある文字の試し書きと練習をする。（本時）

第2時 「そり」「おれ」「まがり」のある文字の練習とまとめ書きをする。

5 本時案（第1時）

・準備 教師：「日」の文字4種類 「七」の文字4種類 モール
モール用の台紙 ワークシート 書画カメラ

目 標	漢字の「おれ」と「まがり」の書き方を理解し、正しく書こうとすることができる。	
学 習 活 動	教 師 の 指 導 ・ 支 援	学習評価
1 学習のめあてをもつ。 (1) 試し書きをする。 (2) 「おれ」と「まがり」について考え、めあてをもつ。	○「日」と「七」を書く事を伝え、空書きして書き順を確認する。 ○「日」と「七」の試し書きをする。 ・鉛筆ホルダーをつけて、正しい持ち方と正しい姿勢で書かせる。 ○「おれ」と「まがり」について考える。 ・正しい文字あてクイズをすることによって、正しい「おれ」「まがり」について考えやすくする。 ・それぞれ文字を提示し、児童の発言を分かりやすく黒板にまとめて書く。  ・「おれ」は一度止めてから方向を変えておること、「まがり」途中で止めずにゆっくり丁寧にまげることを確認させる。 ・自分の試し書きの漢字の「おれ」「まがり」は、正しく書けているかよく見て、めあてが意識できるようにする。 「おれ」と「まがり」に気をつけて書こう	・「おれ」と「まがり」の違いに気づくことができたか。(思)
2 「おれ」と「まがり」の練習をする。 5 まとめをする。	○「おれ」と「まがり」をモールで作る。 ・モールで作らせ、隣同士で見合って、「おれ」と「まがり」の違いを理解させる。 ○「おれ」と「まがり」のある文字の練習をする。 ・練習する漢字の「おれ」の部分に□、「まがり」の部分に○をつけさせてから練習させる。 ・「日」の「おれ」は真下に、「口」の「おれ」は内側におれることを確認する。 ○「おれ」「まがり」に気をつけてまとめ書きをする。 ・試し書きと比べて、 ◎ ○ で自己評価させる。 ・書画カメラで上達した児童の文字を見て、みんなでよさを認め合い、次への意欲につなげる。 ・学習のふり返りをする。	・「おれ」「まがり」の書き方の違いを理解して書くことができたか。(技)

6 成果と課題

- ・「おれ」や「まがり」をはっきりとつかませるために文字クイズを行った。文字クイズの文字が細く、見えにくかったが、児童はよく点画を見てどこがおかしいかの確に指摘することができた。クイズ形式にすると興味を持ってでき、効果的であった。また、作業によって確認させるためにモールを使ったが、「おれ」と「まがり」の区別がつきにくかった。ストローを使う方がよかったのではないかなと思う。
- ・姿勢ペンダントは、姿勢を意識させる上で効果的であったが、書いたり聞いたりするときの姿勢が崩れやすいため、常に正しい姿勢を意識させながら今後も指導していくことが大切である。
- ・普段の漢字練習で「トン・スー・トン」「トン・スー」と音声化して宙書きをすることで、点画を意識して書くことができている。また、本時の授業の中での児童の「しゃっきつとしている」（おれ）などの言葉が出た。そのような児童の直感的な表現は他の児童にもわかりやすく、文字を指導するときの用語として使っていくことがよい。
- ・学習意欲を持たせるために、練習用紙に「日」「七」以外の「おれ」「まがり」のある漢字も使ったが、漢字をもっとしぼって練習させる方がより効果的であった。
- ・試し書きとまとめ書きを比較すると、まとめ書きで「おれ」「まがり」を意識して書けている児童が多かった。よく書けている児童のまとめ書きを書画カメラで紹介したのは励みになって効果的であった。



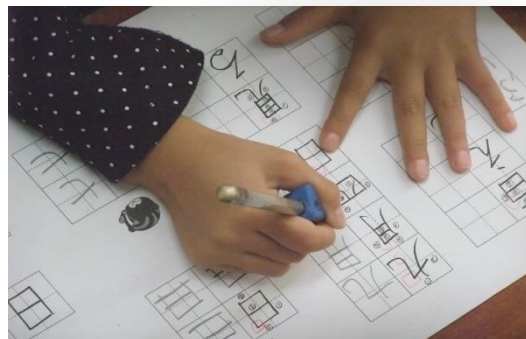
〈モールを使って〉



〈「おれ」と「まがり」の違いを発表〉



〈友だちと確かめ合う〉



〈「おれ」と「まがり」のある漢字を練習〉

【実践事例 第2学年】

第2学年 国語科（書写）学習指導案

平成26年6月25日（水） 第4校時

1 単元名

かたかなのがくしゅう「文字の形」

2 単元目標

- 文字の外形について考えたり，書こうとしたりしている。（関心・意欲・態度）
- 文字の正しい書き方について考えることができる。（思考・判断）
- 文字の外形を理解し，ていねいに書くことができる。（知識・理解・技能）
- ノートやプリントでも文字の外形に気をつけて書くことができる。（書写の日常化）

3 指導上の立場

（1）単元について

本単元では，文字の外形の違いに気づき，字形を整えて書くことをねらいとしている。そこで，片仮名の形を，横長の四角，縦長の四角，だいたい四角などのおおよその形に当てはめる学習を通して，それぞれの特徴や違いに気付かせたい。そして，外形を意識させながらくり返し練習していくうちに字形を整えて書くことができるようにしていきたいと考える。

（2）児童の実態

本学級の児童は，男子16名，女子9名の25名である。2年生になって，「かたかなの学習」として，「画のおわり，画のとちゅうの書き方」，「似た字」について学習してきている。授業中の練習では気をつけて書けているが，日常場面では生かしきれしていない児童が多い。また，鉛筆の持ち方がよくないため，筆圧が弱い児童もいる。そこで，一字一字基本的なことを押さえつつ，外形を意識しながら，丁寧に書いていくことを徹底させたい。

（3）研究テーマとの関連

本校の研究主題である『基礎・基本をふまえて，生き生きと学ぶ子どもの育成－自己の伸びを実感でき，生活に生かす書写学習－』に迫るために次のような工夫をしたい。

○主体的に学び，日常化の図れる工夫

- ・書くことに慣れるために，視写を朝学習や国語の時間に行う。
- ・外形に気をつけて書くことの良さに気づき，日常に生かすことができるように，連絡帳での字形がくずれている例を示し，手本との違いを見つける活動を取り入れる。

○基礎基本を身につけさせる工夫

- ・文字の外形を理解させるために，外形枠を作り，どの文字がどんな形に近いか考えることができるようにする。外形枠は，違いをはっきりと区別するために色分けをしておく。

○自己の伸びを実感させる工夫

- ・自分が書いた文字が，形よく書けているかどうか確かめることができるように，ひとりひとり外形透明シートを与え，書いた後にチェックできるようにする。
- ・のびを実感することができるように，ためし書きとまとめ書きを比べられる「のびのびシート」に清書をする。

4 指導計画（全 5 時間）

- 第 1 時 画のおわりの書き方に気をつけて，ていねいに書く。
 第 2 時 画のとちゅうの書き方に気をつけて，ていねいに書く。
 第 3 時 片仮名の外形の違いを理解し，ていねいに書く。（本時）
 第 4 時 似ている文字について，点画の方向に気をつけて正しく書く。
 第 5 時 片仮名の表を見ながら，形に気をつけて片仮名の言葉を練習する。

5 本時案（第 3 時）

目 標	文字の外形について理解し，外形を意識しながらていねいに書くことができる。		
	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1	学習のめあてをもつ。 (1) 試し書きをする。 「ボール」 「チャイム」 「ニュース」 (2) 文字の外形について考え，めあてを持つ。	○筆順を確認するために，空書きをする。 ○姿勢や鉛筆の持ち方を確認してから，試し書きの準備をするよう促す。 ○前時で習った，「とめ」「はね」「はらい」「まがり」「おれ」についても思い出せるよう，声をかける。 ○外形に当てはまっていない「ホ」の例を提示し，外形を考えて書く必要性を実感できるようにする。	○文字に適した外形を考えることができたか (思考・判断)
	正しい「ホ」の外形クイズ だいたい四かく よこ長 たて長 ホ ホ ホ		
		○ほかの「イ」「ニ」は，どの外形枠が当てはまるか，手本の文字に当てはめて話し合う活動を通して，字形を整えるためには外形が関係していることを確認する。 ○自分の試し書きが外形に合っているかどうか外形透明シー	

	トで調べ、めあてをはっきりと持つことができるようにする。	
	文字の形に気をつけて、ていねいに書こう。	
2 練習する。	○自分の書いた字が整っているか確かめるのに、外形透明シートを使うことで、自分で直しながら練習を進めていくことができるようにする。 ○姿勢や鉛筆の持ち方の正しい児童を称揚し、児童自ら姿勢や持ち方に気をつけることができるようにする。	
3 まとめをする。	○まとめ書きをする前に、もう一度、外形について振り返ることで、要点を意識して書くことができるようにする。 ○試し書きとまとめ書きの外形を比較して自己評価させる。 ○書画カメラで上達した児童の文字をみんなで見て、良さを認め合うことで、次への意欲につながるようにする。 ○連絡帳にくずれた字形で時間割を書いている例を示し、日常場面（マスのない紙に書く場合）でも、外形に気をつけて書くことの有用性に気づくことができるようにする。	○文字の外形を理解して、ていねいに書くことができたか。 (知識・理解・技能)

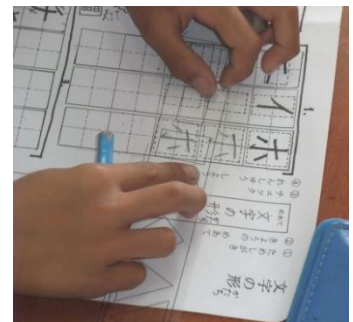
6 成果と課題

- ・姿勢や鉛筆の持ち方を書くたびに確認した。忘れてしまいがちな児童や乱れやすい児童もその都度直すことができたため、正しい姿勢・持ち方で書く時間が長くもてた。入学当初から繰り返し練習しているため、掲示を見たり、合い言葉を繰り返したりすることで、直すのもスムーズにできた。
- ・外形クイズ（正しい外形の字を見つける）は、楽しんで積極的に取り組んでいた。また比べることで、外形を整えるときれいになることに気づいていたようだ。
- ・空書きは、今回は外形の理解がめあてであったので、筆順を確認する最初の1回だけでよかったように思う。空書きをする目的を考える必要がある。
- ・透明シートを用いることで、正しい外形で書けているかの確認はできていたが、どこをどうすれば正しい外形に近づくか（例えば、1画目を短くするなど）を気づかせる活動があればさらに基礎を押さえることができた。シートのそれぞれの外形に番号をふるなどして、児童にわかりやすくする必要がある。

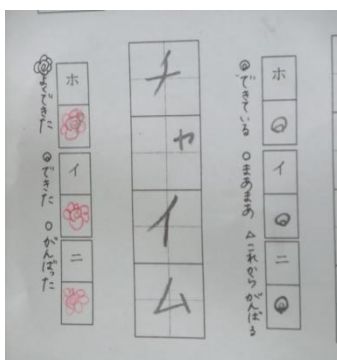
- ・日常場面で生かせるように，連絡帳に外形が正しく書けている例と，そうでない例を提示し，どちらがよいか考える活動を行った。この授業の後から，連絡帳を書くときに，形に気をつけて書いたり，中には，外形を薄く書いてから文字を書いたりする児童もいた。日常場面でどのように生かせるかを具体的に知らせることは重要であることが分かった。
- ・透明シートを用いて，自分で正しく書けたか確認していた。また何度も書き直しては，確認するといったような主体的な学習の姿が見られたので，大変有効な教具だと考える。「1番いい字を見つけよう。」などの声かけがあれば，さらに主体的に取り組める。
- ・実物投影機で写して，よくなったところを発表し合った。友達に評価してもらうことを子どもたちは楽しみに，意欲的に書いていた。この時期の子どもたちには，自己の評価も必要だが，他者による評価はより有用だと分かった。



〈きれいに入る外形枠を考える〉



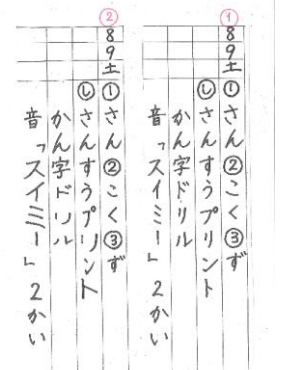
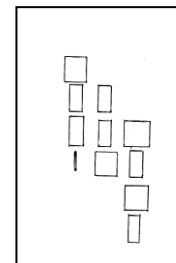
〈透明シートでチェック〉



〈のびのびシートに自己評価
上手になったことが実感できる〉



〈友だちのよくなったところ
を見つける。教師も一言評価を
し，花丸をする。〉



〈透明のシートに枠を
書いておき，両方に当
てて比べる。〉

低学年の成果と課題

○ 基礎・基本を重視した取り組みについて

- ・正しい姿勢が意識できるよう「ペタ・ピン・グー」の合い言葉を作り，唱えながら姿勢を直していったのは効果的であった。姿勢があまりにも前屈みになりやすい児童には姿勢ペンダントが効果があった。しかし，書いたり読んだりすることに夢中になるとすぐに姿勢が崩れるので，たびたび声かけが必要である。
- ・色分けによって筆順を表したカードや外形枠カードなどによって，文字の基礎・基本がわかりやすくなった。
- ・「とめ」「はね」「はらい」など指導するときに「とん」「ぴょん」「すうっ」など様子を表す言葉を用いて繰り返し練習することで楽しく学習できた。
- ・文字の基準は，クイズ形式の問題や外形シートなどの教具を使うことで理解しやすくなった。そして，試し書きと手本を比べることでめあてをつかむことができた。ただ，外形がはっきりとつかめない文字があったり，「おれ」や「曲がり」がモールではわかりにくかったりして，課題の残る教具もあった。
- ・床にビニールテープを貼り，その上を歩くことで，「おれ」や「はね」の時は，いったん止まることを体感することができていた。

○ 主体的な学習にするための取り組みについて

- ・練習用紙と振り返り用紙を一つにしたワークシートは，学習の流れがよく分かって意欲的に学習できた。ただ，練習する内容や量は今後研究していく必要がある。児童は，量が多くても最後まで頑張って練習するのであるが，上達の過程を見ていき，効果的かどうか検討していきたい。
- ・外形枠シートで自分の練習した文字を見直すことができた。

○ 自己の伸びを感じることでできる評価の取り組みについて

- ・試し書きとまとめ書きを比べるとき「よくできた」「できた」「がんばった」の三項目で自己評価することで自分の伸びに気づくことができた。
- ・書画カメラで自分の作品が紹介され，友だちからほめられるととても喜んでいて，満足感を味わうことができたようだ。

(4) 高学年部(中学年)の実践

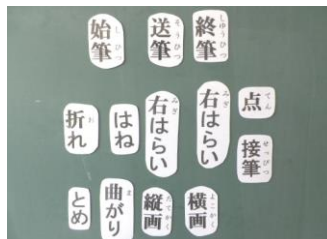
① 基礎・基本を重視した取り組み

- 文字を書く基礎・基本である「姿勢」「筆記用具の持ち方」「点画」「筆順」についての工夫

「正しい姿勢」「正しい筆記用具の持ち方」の図を掲示し、「足裏ペッタン背筋はピン おなかと背中にげんこつ一つ手をおいてさあ書こう」や「親指の位置は？」といった声かけをすることで正しい姿勢を意識できるようにした。また、「書写用語カード」を作成し、点画の種類を理解できるようにした。このほかにも毛筆の準備図や筆の洗い方の図を掲示し準備や片付けがスムーズにできるようにした。



〈準備の仕方〉



〈書写用語カード〉



〈正しい姿勢〉

「点画」を毛筆で形を整えて書くための工夫として、「ハンド穂先」を作成し、始筆、送筆、終筆のそれぞれの穂先の向きを視覚的に分かりやすく示していった。また、書画カメラを上からではなく穂先が分かる角度から使用し、筆圧がより分かりやすくなるようにした。



〈ハンド穂先〉

児童自ら気づける手立てとして、薄墨をつけた筆の穂先だけに朱墨をつけて「点画」の練習をさせた。そのことで穂先がどこを通ったのかを視覚的により分かりやすくした。そのほかにも筆圧を「1・2・3」の3段階に数値化して意識させることを行った。「1の筆圧で」と声かけをすれば児童は穂先を軽く当て、「3の筆圧で」と声かけをすれば強い筆圧で点画を書いていけるようにした。



〈薄墨と朱墨で左はらいの練習〉

「筆順」の基礎・基本として「筆順の三大原則」である「上から下へ」「左から右へ」「横から縦へ」を常に振り返り指導していった。また、筆順のパターンカードを作成し掲示することで、「筆順」の基礎・基本がより分かるようにした。



〈筆順パターンカード〉

○ 文字の基礎・基本を明確につかませるための工夫

字形の異なる文字をいくつか掲示し比較検討させることでより文字の基礎・基本がつかめられるようにした。



〈いろいろな字形の力〉



〈いろいろな字形の光〉

「点画ピース」や「歯止め文字」の操作活動を通して、正しい字形をより意識づけられるようにした。



〈美の点画ピース〉



〈左右の点画ピース〉



〈力の歯止め文字〉

② 主体的な学習にするための評価の取り組み

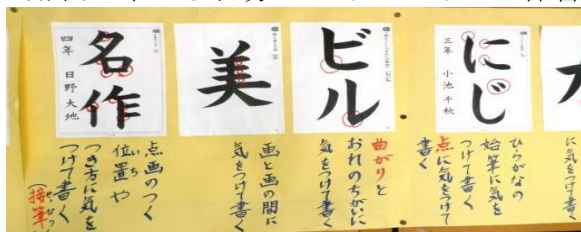
○ めあてをもたせる工夫

児童が自分のめあてを明確にもち学習に取り組めるように既習事項をまとめた掲示物を作成した。

文字のどの部分に特に気をつけて書くのかを明確にさせるために「試し書き」の字に赤ペン等で○をつけさせたり、掲示用の拡大文字に児童のネームプレートを貼らせたりした。

○ 主体的な練習にするための工夫

「かご書き」「ほね書き」「始筆の位置のみ」「字形の一部分」「外形」などの練習用紙の中から自分のめあてにあった練習用紙を選択できるようにした。



〈既習事項をまとめた掲示物〉



〈めあてを決め、練習用紙を選択〉

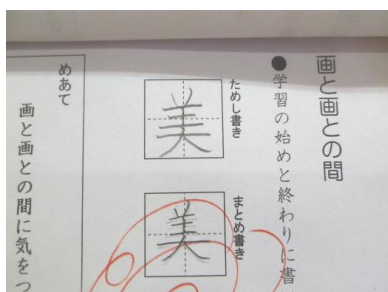
③ 自己の伸びを感じることでできる評価の取り組み

○ めあての達成を確認するための工夫

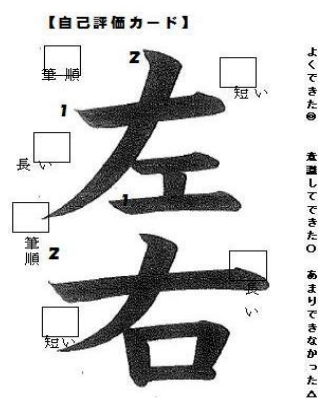
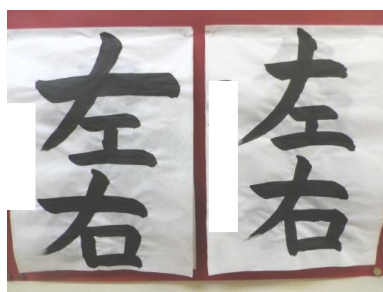
単元のはじめとおわりに硬筆による「試し書き」と「まとめ書き」を行い、比較させることでめあての達成度を確認できるようにした。また、硬筆による「試し書き」と「まとめ書き」をすることでより日常の書字活動に生かせるようにした。毛筆による「試し書き」と「まとめ書き」も行い、比較検討させ達成度を確認できるようにした。

○ 自己評価カードの工夫

字形を整えるポイントを振り返ることができる自己評価カードを作成し、チェックさせることでより伸びを実感できるようにした。



〈試し書きとまとめ書き〉



〈自己評価カード〉

○ 相互評価の工夫

ペアグループによる相互評価で「試し書き」と「まとめ書き」を比較検討させ伸びているところを見つける時間を確保した。

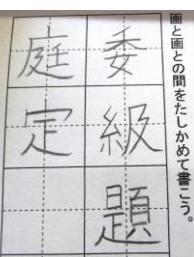
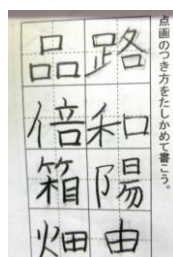


〈ペアグループによる相互評価の様子〉

④ 生活に生かすための取り組み

○ 漢字見つけの活動

単元のまとめの活動として、学習した字形を整えるポイントに関連のある漢字を既習漢字表の中から見つけ出しワークシートに書き出す時間を確保した。



〈漢字見つけワークシート〉

【実践事例 第3学年】

第3学年 国語科(書写)学習指導案

平成26年6月12日(木)第3校時

1 単元名

はらいの筆使い「人」

2 単元目標

- 左右の「はらい」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。
(関心・意欲・態度)
- 左右の「はらい」の筆使いの良しあしを考えることができる。(思考・判断)
- 左右の「はらい」の筆使いの違いを理解し、字形を整えて書くことができる。
(知識・理解・技能)
- 他の文字や硬筆でも左右の「はらい」の書き方に気をつけて書こうとする意識をもつことができる。
(書写の日常化)

3 指導上の立場

(1) 単元について

本単元は、「左はらい」「右はらい」の理解と習熟がねらいである。穂先をまとめながら払う動作は、毛筆独特のものであるが、左右の「はらい」は、毛筆学習をすることによって硬筆にも生かされる。したがって、硬筆と毛筆を関連させた意識づけを積極的に図っていききたい。

「右はらい」は、徐々に力を加えていき、最下部で最大の筆圧になったときに一度止め、徐々に力を抜きながら横に払う。力の入れ方と抜き方がポイントとなるので、筆圧のかけ方に着目できるように指導していききたい。また、単元後半の硬筆学習では、『人』以外の文字にも応用を図り、『大』のように一度真っ直ぐに下りてゆっくり払う書き方や、短い「はらい」をもつ『千』、長い「はらい」の『月』、「によう」の払う部分など、さまざまな方向をもつ「はらい」について、字形を整えて書くことができるようにしていききたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童(11名)は、3年生になって初めて毛筆学習が始まり、筆で書くことに対して興味をもって学習に取り組んでいる。これまでに学習した横画と縦画の筆使いでは、「始筆の穂先の向き」「送筆と終筆の筆使い」「穂先の通るところ」に注意して書くことを学習してきた。まとめ書きを見て評価をする場面では、「始筆の穂先の向き」について評価する児童が増えてきており、始筆を意識して書こうとしていることがうかがえる。また、書写の事前調査では、「ノートや用紙を手で押さえて書くこと」や「姿勢」「文字の大きさ」「はね」「止め」などに気をつけて丁寧に書くことに課題のある児童が多いことが分かった。

この結果から、本単元では、常に姿勢を確認してから書き始めることや、「はらい」の筆使いの学習から終筆を意識して書くことの大切さを定着させていききたい。

(3) 研究テーマとの関連

本校の研究主題である『基礎・基本をふまえて、生き生きと学ぶ子どもの育成～自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写学習～』に迫るために次のような工夫をしていきたい。

- ・主体的に学び、日常化の図れる工夫

第2時では、左右の「はらい」のどちらかに個人のめあてをきめる。

「はらい」のある漢字見つけを行う。

- ・基礎基本を身に付けさせる工夫

合言葉で姿勢の確認を繰り返し行う。

筆圧を数値化したり、穂先の通る位置を示した籠書きの練習用紙を使ったりする。
穂先に朱墨をつけて練習させることで穂先の通る位置を確認できるようにする。

・伸びの実感できる自己評価と相互評価

自己評価では、上手く書けなくても意識して書けたら「○」を付けられるようにする。相互評価では、良い所を見つけさせる。

4 単元計画

第1時 左右の「はらい」の筆使いの違いに気をつけて書く。

第2時 左右の「はらい」に気をつけて、字形を整えて書く。（本時）

第3時 「はらい」の方向に気をつけて、硬筆で字形を整えて書く。

5 本時案（第2時）

目標	左右の「はらい」の違いを理解し、筆使いに気を付けながら字形を整えて書くことができる。	
学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 前時の学習事項を振り返る。	○教科書P. 15の拡大掲示物を準備し、左右の「はらい」の筆使いの違いについて、「筆圧」「穂先の向き」などの用語を使いながら確認する。 ○「左はらい」は 〈筆圧〉③→②→①と示すことで、だんだん力を抜いていくことを確認する。 〈穂先の向き〉穂先の拡大模型を使って確認する。 ○「右はらい」は 〈筆圧〉①→②→③と最大になったところで一度止め、方向を変えて「すうっ」とはらい①となることを確認する。 〈穂先の向き〉穂先に朱墨をつけて筆使いを示し、穂先の向きを確認する。	○左右の「はらい」の違いを理解できたか。（知）
2 本時のめあてを知る。	「はらい」の筆使いに気をつけて書こう。 ○間違った筆使いを示すことで、筆圧に気を付けることの大切さに気づかせる。	
3 自己の課題を見つける。	○前時のまとめ書きを批正し、どちらか達成度の低い方を本時の課題とさせる。	
4 練習をする。	○空書きで、穂先の向き、筆圧について再確認させる。 ○姿勢、紙を押さえること、筆を立てて書くことを確認し練習させる。 ○穂先の通る位置や筆圧を数値化した籠書きの練習用紙を使うことで、筆使いに気をつけて練習できるようにする。 ○薄墨と朱墨を使って書かせることで、穂先の通る位	

5 まとめをする。	置を意識して練習できようにする。 ○机間指導で、よくできているところを称揚したり、めあてや筆使いについての助言をしたりする。 ○筆使いや姿勢を確認し、まとめ書きをさせる。 ○自己評価してワークシートに記入させる。	○正しい筆使いで書けたか。(技)
6 日常化する。	○数人の試し書きとまとめ書きを取り上げ、よくできたところや難しかったところを伝え合い、同じ自己評価について挙手で確認することで、個々の思いを全体で共有させる。 ○教科書P. 15の教材文字を「はらい」に気をつけて書かせる。	

6 成果と課題

- ・はらいの筆使いを理解させるために、薄墨を使って穂先に朱墨を付け、書画カメラで写して範書を見せた。穂先の通る位置を確認できて効果的だった。一方、筆圧を確認するために、範書を横からカメラで写して見せたが、筆圧はとらえやすくなったものの、文字との位置関係が分からない児童がいた。筆圧については、「ハンド穂先」をつかって「1・2・3」という数値で示した方が分かりやすかった。
- ・児童にも薄墨に朱墨をつけて練習させた。朱墨によって穂先の位置が確認できるので、筆圧の数字と穂先が通る位置を示した範書きの練習用紙と合わせて使ったことで、集中して練習に取り組むことができ効果的だった。



- ・前時の学習のまとめ書きを批正して「左はらい」か「右はらいの」どちらかを本時の個人のめあてとするようにした。全員が「右はらい」を課題に選んだ。「筆圧を③にして一度止めてからはらう」という筆使いを練習したいという意識を持っていた。学習活動のまとめの段階で自己評価や相互評価を発表させたが、よく書けている点を見つけることはできたが、個人のめあてについての評価があいまいになってしまった。個人のめあてについてもきちんと評価させる必要があった。



【実践事例 第4学年】

第4学年 国語科(書写)学習指導案

平成26年6月 4日(水) 第3校時

1 単元名

筆順と字形「左右」

2 単元目標

- 筆順と字形に気をつけて字形を整えて書こうとしてる。(関・意・態)
- 筆順と字形の関係について、よく考えることができる。(思考・判断)
- 筆順と字形の関係についてよく理解し、字形の整え方を把握し書くことができる。(知識・理解・技能)
- 常に筆順と字形に気をつけて書こうとする意識を持つことができる。(書写の日常化)

3 指導上の立場

(1) 単元について

本単元は、「筆順と字形」の関係を理解し、正しい筆順で字形を整えて書くことができるようになることがねらいである。正しい筆順に従って書くと字形は整えやすくなる。「右」と「左」は筆順の違いが字形の違いとして表れている典型的な例である。筆順と字形の関係を理解し、常に正しい筆順で書く意識がもてるようにしたい。また、単元の後半では「筆順の三大原則」を応用し、部分と部分の組み立て方についても同じきまりで書くことを確かめていきたい。さらに活用度が高いきまりとして「左はらいが先」「つらぬく横画が最後」や、間違えやすい筆順についても扱い、日常化を図っていきたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童(16名)は、4年生になって、字形を整えるために「画と画の間に気をつけること」「点画のつき方とつく位置に気をつけること」を学習してきている。児童は、点画パーツなどを扱い意欲的にポイントを考えることができている。また、めあてを意識して練習に取り組んでいる。始筆や終筆、はねやはらいなどの毛筆の基本的な技能については個人差が大きい。学習したことを日常の書字活動に生かしている児童は少ない。筆順については、新出漢字の練習では意識して書けているが、日常の書字活動で筆順を間違えている児童が数名いる。

書写の事前調査では、基本的な姿勢や鉛筆の持ち方ができていない児童が多いこととマスや野線に対する文字の大きさに課題があることが分かった。

この結果から、本単元では正しい筆順で書くことの大切さと、鉛筆の正しい持ち方、マスや野線に応じた字の大きさを意識した指導をこころがけていきたい。

(3) 研究テーマとの関連

本校の研究主題である『基礎・基本をふまえて、生き生きと学ぶ子どもの育成～自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写学習～』に迫るために次のような工夫をしていきたい。

- ・主体的に学び、日常化の図れる工夫
 - 共通のめあてと既習学習をもとにした個人のめあてをもてるようにする。
 - 毛筆学習の評価活動を硬筆学習の導入にする学習活動の工夫をする。
 - 筆順の原則が同じ漢字見つけを行う。
- ・基礎基本を身に付けさせる工夫

字形の違う文字を提示し比較検討させる。
 視覚的に分かりやすい掲示の工夫をする。
 ワークシートの工夫。

- ・伸びの実感できる自己評価と相互評価
 評価カードを工夫し自己評価とペアグループによる相互評価を行う。
 毛筆学習の評価活動の時間確保の工夫をする。

4 単元計画（全3時間）

- 第1時 筆順と字形の関係を理解する。
 第2時 筆順に気をつけて字形を整えて書く。
 第3時 筆順と字形を確かめて硬筆で字形を整えて書く。（本時）

5 本時案（第3時）

目標	筆順の原則を理解して，硬筆で字形を整えて書くことができる。	
学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 前時のまとめをする。 ①試し書きとまとめ書きの相互評価と自己評価をする。 ②硬筆でまとめ書きをする。	○「左」「右」の拡大掲示物を用意し字形を整えるためのポイントを振り返りやすくする。 ○評価カードを用意しペアグループで相互評価しやすくする。 ○ためし書きよりよくなっている箇所をしっかりと称揚し，書字活動に意欲がもてるようにする。 ○姿勢と鉛筆の持ち方を確認し，ワークシートに硬筆で「左」「右」を丁寧にまとめ書きするように指導する。 ○わざと筆順を変えて「右」を書かせてみることで，正しい筆順で書くことのよさであるつぎの3つのポイントを確認し，筆順についてさらに学習していくことを伝える。 ①字形を整えやすい ②書きやすい ③覚えやすい	
2 本時のめあてを知る。	○「十」「川」「三」を掲示することで，筆順の三大原則である「横から縦へ」「左から右へ」「上から下へ」の確認をしやすくする。また，「世」「口」「言」はどの原則に当てはまるかを考えさせることでより三大原則を確認しやすくする。 ○部首のある漢字にはどのような筆順のきまりがあるのかを考えていくことを伝える。また，正しい筆順で字形を整えて書くことを伝える。	
筆順のきまりを知り，字形を整えて書こう		
3 筆順のきまりを知る。	○「類」「特」を掲示し「左の部分が先」であることを確認できるようにする。また，部分ごとに色分けをしたカードを用意し「左の部分が先」であることを視覚的に分かりやすくする。 ○「然」「芸」を掲示し「上の部分が先」であることを確認できるようにする。（色分けしたカードを用意する。） ○「文」「会」「波」を掲示し「左はらいが先」であることを確認する。（色分けしたカードを用意する。）	

4 同類の筆順の漢字を見つける。 5 特に筆順に気をつける字を知る。 6 本時のまとめをする。	○「季」「要」を掲示し「つらぬく横画が最後」であることを確認する。（色分けしたカードを用意する。） ○教科書の3年生で学習した漢字表を使うことでそれぞれのきまりと同類の漢字を見つけられるようにする。また、ワークシートを用意し、見つけた漢字を書くことができるようにする。 （例） 「左の部分が先」・・・「暗」「院」「飲」「泳」など 「上の部分が先」・・・「悪」「医」「意」「育」など 「左はらいが先」・・・「央」「界」「客」など 「つらぬく横画が最後」・・・「安」「委」「写」など ○「必」「機」「飛」「成」を掲示し、筆順を確認する。 ○宙書きをすることでより正しい筆順を意識できるようにする。 ○ワークシートを用意し、正しい筆順で書けるようにする。 ○鉛筆の持ち方と姿勢を確認する。 ○字形を整えて丁寧に書いている児童をしっかり称揚し、書字活動により意欲がもてるようにする。 ○筆順のきまりを振り返り、正しい筆順で書くことが字を整えることにつながることを再確認する。	○同類の筆順の漢字を見つけることができたか。（知・理） ○筆順に気をつけて字を整えて書けたか。（技）
--	--	--

6 成果と課題

- ・主体的な学びになるように共通のめあてと個人のめあてをもてるようにした。個人のめあてをつかませる手立てとして既習事項をまとめた掲示物を作成した。児童はこの中からめあてを見つけ学習に取り組むことができたが、中には適切なめあてをつかめていない児童もいた。その児童には助言をすることでより適切なめあてになるように配慮した。
- ・今回は授業の導入に前時の毛筆の評価活動を行うという試みをした。毛筆の授業1単位時間（45分）の中で、自己評価や相互評価をする時間をしっかり確保することは難しかったが、本単元のよう硬筆学習の導入に時間を確保すれば余裕をもって評価活動を行うことができた。また、評価活動をしたことで本時のねらいである「正しい筆順で書く」ことの大切さにより気づくことができた。スムーズに本時の学習に入ることができた。
- ・本時の学習を通して「筆順の基本的なきまり」について児童は知ることができた。また、3年生までに学習した漢字表から筆順の原則が同じ漢字見つけを行うことでより主体的な学びになり、日常化にもつながる活動になった。



中学年の成果と課題

○ 基礎・基本を重視した取り組みについて

- ・「正しい姿勢」「正しい筆記用具の持ち方」について書写の時間には特に声かけをしっかりとっていったので、児童は意識することができた。しかし、他教科においては姿勢や筆記用具の持ち方を意識できていないことが多いので、常に声かけしていく必要がある。
- ・「書写用語カード」を作成し掲示に使うことで、児童が発表やペアグループでの評価活動の中で、書写用語を用いることができるようになってきた。
- ・「点画」を毛筆で形を整えて書くための工夫として作成した「ハンド穂先」は、始筆時の穂先の向きを確認するときには効果があった。また、「点画」を書くときに穂先がどこを通っているかも視覚的に分かりやすかった。しかし、筆圧については分かりにくい。
- ・書画カメラで斜めから映し出すことで、筆圧を視覚的にとらえやすくなったが、書いている文字も斜めから映すことになるので、文字のどの部分の筆圧なのか位置感覚の分かりにくい児童もいた。筆圧を数値化した「1の筆圧で」「3の筆圧で」といった声かけをしながら練習用紙に実際に筆圧を意識して書かせることが効果的であった。
- ・薄墨をつけた筆の穂先だけに朱墨をつけて「点画」の練習をさせる方法は、穂先の向きや通った場所が確認できるのでとても効果的であった。朱墨をつけすぎる児童がいるので、紙コップに少しだけ朱墨を入れて渡すと穂先だけに朱墨がついてうまく活用できた。
- ・授業の導入時に、字形の異なる文字をいくつか掲示し比較検討させることで児童は、正しい字形について主体的に考える姿が見られた。児童は、字形を整えるポイントをより意識して練習することができるようになった。
- ・「点画ピース」は画と画の間を意識させたり、接筆を意識させたりするのに効果的であった。また、点画の長さの違いにも気づくことができた。「歯止め文字」は「折れ」や「はね」の角度をつかませるのに効果的であった。「点画ピース」や「歯止め文字」は、正しい字形のポイントを確認する前に予想させる場面、正しい字形のポイントを確認したあとに正しい字形を作ってみる場面の2パターンで使用した。児童は予想場面での使用の方がより意欲的に活動する様子が見られた。

○ 主体的な学習にするための取り組みについて

- ・「共通のめあて」と「個人のめあて」をそれぞれ考えて、学習に取り組ませた「共通のめあて」は新しく学習した字形を整えるポイント、「個人のめあて」は基本的には既習事項をもとにめあてを立てさせた。「共通のめあて」の部分がしっかり意識して書ける児童には既習事項をもとにした「個人のめあて」も有効であったが、「共通のめあて」だけの方がポイントを集中して練習できたと考えられる児童もいた。
- ・「かご書き」「ほね書き」「始筆の位置のみ」「字形の一部」「外形」といっ

た練習用紙を児童自ら選択し、自己の課題にあった練習を主体的に行っている姿が見られた。また、時間をふまえてそれぞれの練習用紙を使用する姿も見られた。机間指導により、それぞれの児童に特に必要な練習用紙の助言が必要であった。練習用紙に左手の位置を示す図を入れておけばより正しい姿勢を意識した練習ができた。

○ 自己の伸びを感じることでできる評価の取り組みについて

- ・「試し書き」と「まとめ書き」を比較検討させることで明らかに自己の伸びを実感することができた。「試し書き」をする際には、手本を見ないで書かせる場合と手本を見ながら書かせる場合と2パターンで行った。手本を見て書いても、字形を整えるポイントを確認していくと課題は十分見つけることができた。自己の伸びをより感じるができるのは、手本を見ないで「試し書き」をさせたパターンであった。
- ・字形を整えるポイントのよく分かる自己評価カードを作成し自己評価をさせたことで、児童はよりの確な自己の伸びに気づくことができた。
- ・ペアグループによる相互評価をすることで自分では気づけなかった伸びを感じることもできた。また、ペアの友達に全体場でよくなった部分を紹介してもらうことで字を書くことへの自信や意欲につなげることができた。
- ・自己評価や相互評価の時間を確保するために、授業の導入に前時の評価活動を行ってから本時の学習に入っていく単元構成の工夫を行ってみた。友達にしっかり伸びを認めてもらえる時間になった。1単位時間の毛筆学習の中で評価活動の時間をとるよりもかなり余裕をもって取り組むことはできる。しかし、時間が経過しすぎると前時の学習のポイントを確認する時間が必要になる。また、評価活動と本時の学習内容に関連をもたせなければ、授業の流れが途絶えてしまう。

（５）高学年部（高学年）の実践

① 基礎・基本を重視した取り組み

○文字を書く基礎・基本についての工夫

書くための基礎基本を身につけさせるために、「正しい姿勢」「正しい筆記用具の持ち方」「準備の仕方」などの掲示物の工夫を低学年・中学年から引き続き行った。

○文字の基準を明確につかませるための工夫

「点画ピース」「いろいろな大きさの文字」「組み立て方のパターンの掲示」などの教具を使用した。文字の形や組み立て方、ゆずりあいを意識させるために「点画ピース」を利用した。

・点画ピース



〈成長の点画ピース〉



〈歴の点画ピース〉

・いろいろな大きさの文字

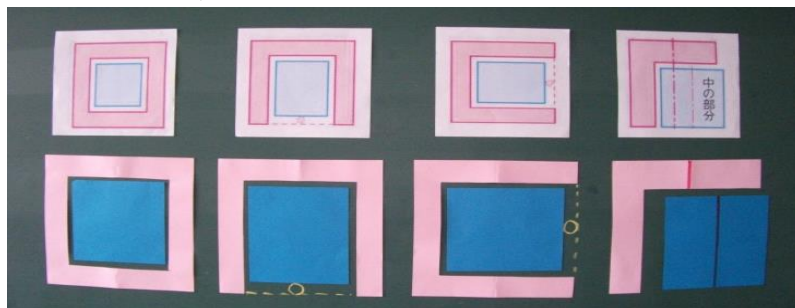
画数の少ない字は、画数の多い字よりも小さく書くとつり合いが取れることを学ばせるために「いろいろな大きさの文字」を利用した。



〈いろいろな大きさの日と記〉

- ・ 組み立て方のパターンの掲示

中と外の部分でできている文字の組み立て方の基礎として「たれの中心より中の部分の中心が右にずれる」「かまえの中の部分はかまえからでないように小さく書く」を日常でも意識するよう指導した。また、「中と外の部分の組み立て方」のパターンを掲示することで、基礎・基本を明確にした。



〈中と外の部分の組み立て方〉

② 主体的な学習にするための取り組み

○めあてを持たせる工夫

児童が自分のめあてを明確に持ち、学習を進めていくために、既習事項をまとめた掲示物を作成し、この中から自分のめあてを選ぶようにした。



〈既習事項をまとめた掲示物〉

2 時間目以降の導入では、字形を整えるためのポイントと比較するために、前時のまとめ書きにしるし（中心線・余白に○）をつけた。それにより、気をつけるべきポイントが明確になった。



〈前時のまとめ書きにしるしをつける〉

○主体的な練習にするための工夫

「かご書き」「骨書き」「始筆の位置のみ」「字形の一部」「外形」などの練習用紙から、自分のめあてにあった練習用紙を選択できるようにした。

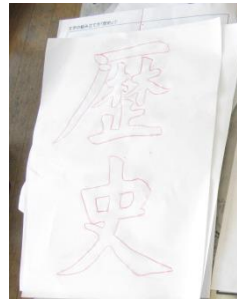
6年生では、自分のめあて、共通のめあてを達成するために練習用紙を自作した。コピーを使用することで半紙に書きやすくなった。



〈余白〉



〈骨書き〉



〈かご書き〉

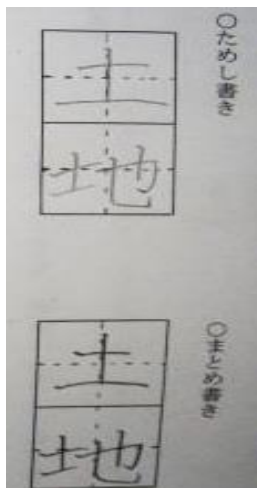


〈余白と中心線〉

③自己の伸びを感じることでできる評価の取り組み

○めあての達成を確認するための自己評価の工夫

単元のはじめとおわりに硬筆による「試し書き」と「まとめ書き」を行い、比較検討させ、自己評価させることで自己の伸びが実感できるようにした。その達成感を、日常の書字活動に生かせるようにした。また、毛筆でも、「試し書き」と「まとめ書き」を行い、比較検討し、達成感を味わうことができるようにした。



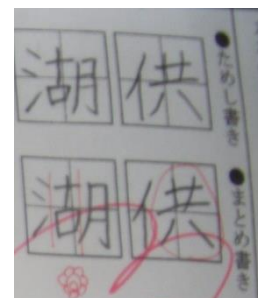
〈硬筆による試し書きとまとめ書き〉



〈毛筆による試し書きとまとめ書き〉

○相互評価の工夫

ペア評価で「試し書き」「まとめ書き」を比較検討させ伸びているところを見つけさせ、めあてに対して評価をした。ペアの児童によくなったところに印をもらうことで達成感を味わわせ、自分では気づけなかった伸びに気づくことができるようにした。



〈ペア評価をしている様子〉

〈よくなったところに印〉

グループ評価では、「試し書き」と「まとめ書き」を机上に起き、「①自分のめあてを紹介する②どのような練習用紙を自作したか紹介する③友だちに評価してもらう」という流れにしている。

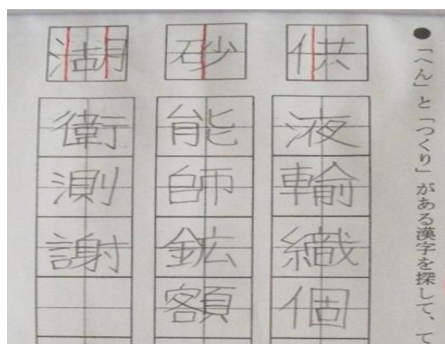


〈グループ評価をしている様子〉

④生活に生かすための取り組み

○漢字見つけの活動

単元のまとめの活動として、学習した字形を整えるポイントの関連のある漢字を既習の漢字表から見つけ出しワークシートに書き出す時間を確保した。



〈漢字見つけ〉

【実践事例 第5学年】

第5学年

国語科（書写）指導

平成26年6月23日（月）第2校時

1 単元名

文字の組み立て方①「土地」

2 単元目標

- 「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。
(関心・意欲・態度)
- 「へん」と「つくり」の幅や、「土」の点画の形の変化の良し悪しを考えている。
(思考・判断)
- 「へん」と「つくり」の幅や、「土」の点画の形の変化についてよく理解し、字形を整えて書いている。
(知識・理解・技能)
- 常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。
(書写の日常化)

3 指導上の立場

(1) 単元について

4年生の「林」に続く、毛筆学習による「文字の組み立て方」の学習が本単元である。単体文字とその単体文字が一部になった文字との組み合わせの熟語になっている。単体文字が文字の一部分になったときの書き方の変化や点画のゆずり合いの仕方が理解できるようになることが重要である。単体の文字が左右の組み立てになれば、横幅がせまくなり、上下の組み立てになれば高さが低くなることを第一に理解することが大事である。そして、点画が変化する場合は、「土」の横画が「つちへん」になると「右はらい」になるように、変化が生じることも認識できるようにしたい。

また毛筆学習の利点を生かして、点画の書き方の変化や、幅のとり方の違いなどが理解できるようにするとともに、課題選択型教材によって、児童の主体性の育成にも努めたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童（19名）は、書写の時間に集中して取り組むことのできる児童もいるが、なかなかできない児童もいる。毛筆では、お手本を見ながらポイントを積極的に考え、硬筆でも形の整った字を書くことができる児童も多い。しかし、日常の中のノート等では、文字がマスからはみだし、字形の整わない児童もいる。またマスよりかなり小さい字を書く児童も数名いる。

また、日常では「正しい姿勢をする」「常に丁寧に書くことができる」など、基本的な規律に課題が見られる児童が多い。書写の学習時間だけでなく、日常においても丁寧に書いたり、姿勢等に気をつけたりすることが、児童の課題であると考えられる。

そこで、「へん」と「つくり」の関係について考えたり、毛筆や硬筆でいくつかの文字について練習したりすることで、日常の書字活動に生かそうとする態度を育てたい。

(3) 研究テーマとの関連

本校の研究主題である『基礎・基本をふまえて、生き生きと学ぶ子どもの育成－自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写学習－』に迫るため次のような学習の工夫をしていきたい。

- ・主体的に学び、日常化の図れる工夫
共通のめあての中から、特に気をつけたい個人のめあてを選ばせる。
単体文字が文字の一部になった漢字を集めることで、書き方の変化や点画のゆずり合いなどの仕方が理解できるようになる。
- ・基礎基本を身につけさせる工夫
「へん」と「つくり」の幅が違う文字を提示し、比較させる。
視覚的に分かりやすい掲示の工夫をする。
- ・自己の伸びを実感させる工夫
ためし書きとまとめ書きを比較させることで、自己の伸びを実感することができるようにする。
自己評価ののち、相互評価をすることで自己の伸びを実感できるようにする。

4 指導計画（全3時間）

第1時 「へん」と「つくり」の組み立て方を知る。

第2時 「へん」と「つくり」の組み立て方を意識してまとめ書きをする。（本時）

第3時 「木材」「竹笛」の組み立て方を確認し、硬筆で練習したのち、単体文字が文字の一部になった漢字集めをする。

5 本時案

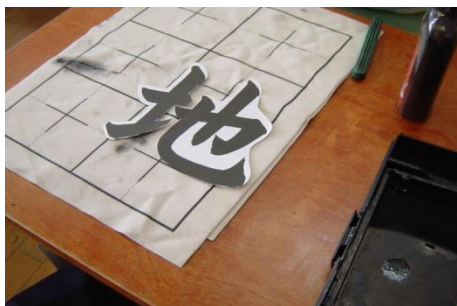
（第2時）

目標	「へん」と「つくり」の組み立て方を理解し、字形を整えて書くことができる。	
学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 前時の学習を想起する。	○前時のまとめ書きを見ることで、前時の活動を想起しやすくする。 ○「つちへん」は、「土」に比べて幅が狭くなり、横画が右上がり、三画目は「はらい」になることを確認することで、個人のめあてをもちやすくする。	○前時のまとめ書きから自分のめあてを見つけられたか。 (思)
2 本時のめあてを確認する。	「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて書こう。 ○手本に中心線を引くことで、それぞれの文字の中心をとらえやすくする。 ○前時に書いたまとめ書きを半分に折り、中心線を引く手本と比べることで、個人のめあてをもちやすくする。 ○前時のポイントを書き出し、前時の自分のまとめ書きと比較して、個人のめあてをつかませる。	
	＜ポイント＞ ・点画のはば ・横画の長さ ・ゆずり合い ・始筆の位置	

3 練習する。	○本時のめあてを確認し、個人のめあてを持たせる。 ○正しい姿勢で書くことを確認する。 ○自分のめあてにあった練習用紙を選ぶことで、意欲的に練習できるようにさせる。 ・籠書き ・骨書き ・中心線 ・「へん」と「つくり」の幅 ・始筆の場所 ○机間指導で、よくできているところを称揚したり、めあてや筆使いについての助言をしたりする。	○「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけ、字形を整えて書けたか。(技・思)
4 まとめ書きをする。	○まとめ書きをする前に、姿勢やめあてをもう一度確認することで、集中して取り組むことができるようにする。 ○前時のまとめ書きと本時のまとめ書きを比較し、全体のめあてと個人のめあてに対し、自己評価させる。	
5 評価をする。	○ペアでお互いの良くなったところを見つけ、認め合うことで、自己の伸びに気付くことができるようにする。	
6 まとめをする。	○ワークシートに硬筆でまとめ書きをし、振り返らせることで次時への意欲へつなげる。	

6 成果と課題

- ・第1時に全体で共通のめあてを確認したのち、気をつけるポイントをみんなで話し合った。本時でそのことを確認したのちに各自のめあてを持たせたので、個人のめあては持ちやすかったが、時間がかかりすぎてしまったので、もう少し要点を絞って考えさせた方がよかった。
- ・個人のめあてに合う練習用紙を選ぶことにより、個人のめあてをより深く考えることにつながったのでよかった。
- ・「へん」と「つくり」の幅をいろいろ変えた文字を提示することにより、視覚的に分かりやすく、子どもたちも気をつけることができたのでよかった。
- ・ためし書きとまとめ書きを比較して自己評価をし、それをワークシートに書いた。その後、ペアグループでお互いの良くなった点を認め合うことで、自己の伸びを実感することができたが、その際もう少しお互いが具体的に伝え合うことができたならよかった。



【実践事例 第6学年】

第6学年 国語科（書写）学習指導案

平成26年6月25日（水）第5校時

1 単元名

文字の大きさ（漢字と漢字） 「日記」

2 単元目標

- 漢字どうしの大きさの違いに気をつけて配列よく書こうとしている。
(関心・意欲・態度)
- 漢字どうしの大きさの違いについて、よく考えることができる。
(思考・判断)
- 漢字どうしの大きさの違いについてよく理解し、配列を把握し書くことができる。
(知識・理解・技能)
- 常に文字の大きさに気をつけて書こうとする意識をもつことができる。
(書写の日常化)

3 指導上の立場

(1) 単元について

本単元では、「配列」の学習の基礎として、改めて文字の形や大きさの違いを理解して、字形を整えて書くことを学ぶ。文字の大きさの学習としては、5年生で「漢字と仮名」を学習した。ここでは、「漢字どうし」であっても形や大きさの違いがあることを理解し、調和よく書くことがねらいとなる。「日記」の場合、画数の少ない「日」を、「記」よりも小さめに書くとつりあいとれる。また、「記」のような組み立て方からなる文字は大きくなることが多い。

次の毛筆単元で学習する「配列」への発展性を考慮して、紙面に対する文字の大きさや文字の中心（行の中心）、字間のとり方についても気をつけて書けるようにしていく。

(2) 児童の実態

本学級の児童（18名）は、6年生になって字形を整えるために「へんをつくりのほのとり方に気をつけること」「中と外の組み立て方に気をつけること」を学習してきている。児童は、点画ピースを用いてポイントを考えたり、自分にあった練習用紙を選んだりして意欲的に学習している。しかし、日常の書字活動では、マスからはみだす、マスに対し字が小さすぎる、字形が整わないなど、さまざまな児童がいる。

書写の事前調査では、基本的な姿勢と鉛筆の持ち方に課題があることが分かった。

そこで、本単元では、文字の大きさに気をつけて書くこと、姿勢を正して書くことを日常の書字活動に生かそうとする態度を育てたい。

(3) 研究テーマとの関連

本校の研究主題である『基礎・基本をふまえて、生き生きと学ぶ子どもの育成－自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写学習－』に迫るために次のような学習の工夫を行う。

- ・主体的に学び、日常化の図れる工夫
共通のめあてと既習事項をもとにした個人のめあてをもてるようにする。

練習用紙を自作することで、自己課題にあった練習ができるようにする。

- ・基礎基本を身につけさせる工夫
漢字どうしの大きさの違う字を提示し、比較検討させる。
- ・自己の伸びを実感させる工夫
自己評価をしたあと、グループ評価をし、自己の伸びに気づけるようにする
試し書きとまとめ書きを並べて掲示したり、ワークシートで硬筆の変化を並べて書いたりすることで、自己の伸びを実感することができるようにする。

4 指導計画（全3時間）

第1時 漢字どうしの文字の大きさの違いを理解して書く。

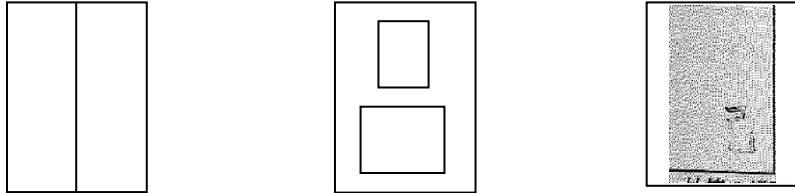
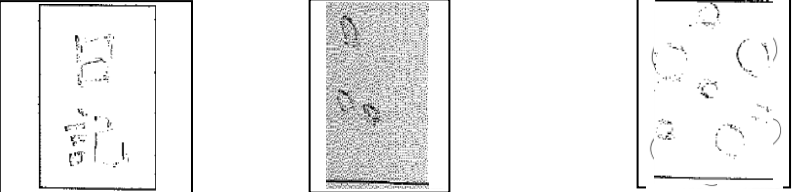
第2時 漢字どうしの文字の大きさの違いに気をつけて、配列よく書く。（本時）

第3時 漢字どうしの文字の大きさを確かめて、硬筆で字形を整えて書く。

5 本時案

（第2時）

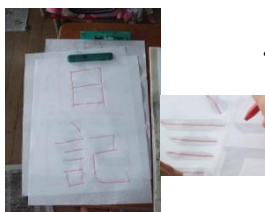
目標	漢字どうしの文字の大きさに気をつけて、配列よく書くことができる。	
学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 前時の学習を想起する。	○前時のまとめ書きを見ることで、前時の活動を想起しやすくする。 ○「日記」の「日」のさまざまな大きさの字を提示することで、前時の「日」は画数が少ないので小さめに書くことを想起させる。	
2 本時のめあてを知る。	漢字どうしの文字の大きさに気をつけて、配列よく書こう。 ○手本に中心線を引くことで、二文字の中心をとらえやすくする。 ○前時に書いたまとめ書きを半分に折り、中心線を引き、手本と比べることで、めあてを持ちやすくする。 ○「記」の「へん」と「つくり」の幅を考えることで、幅の取り方に気をつけることができるようにする。 ○手本の字間や余白にしるしをすることで、気づくことができるようにする。 「配列よく」 ・中心線 ・へんとつくりの幅 ・外形 ・字間 ・余白	
3 練習用紙を自作する。	○全体のめあて、個人のめあてにあった練習用紙を自作できるように、書画カメラを使い練習用紙の例を提示する。 ○半紙に練習用紙を作成するときにクーピーを使うことで線を引きやすくする。	
		○自分にふさわしい練習用紙を考え作成できたか。（思）

4 練習する。 5 毛筆でまとめ書きをする。 6 評価をする。 7 まとめをする。	(予想される児童の練習用紙) ・ 中心線 (中心) ・ 外形 (字のバランス) ・ 字の一部分 (苦手を克服)  ・ 骨書き (長さや向き) ・ 始筆 (配置) ・ ○をつける (余白や字間)  ○正しい姿勢で書くことを全体で確認する。 ○机間指導で、よくできているところを称揚したり、めあてや筆使いについて助言したりする。 ○まとめ書きの前に、姿勢やめあてをもう一度確認することで、集中して取り組むことができるようにする。 ○ワークシートにまとめ書きと前時のまとめ書きを比較し、全体のめあてと個人のめあてに對し自己評価をさせる。 ○グループ評価をさせることで、自分では気づかなかった自己の伸びに気づくことができるようにする。 ○ワークシートに硬筆でまとめ書きをし、振り返らせることで次時の意欲につなげる。	○文字の大小に気をつけて配列よく書けたか。(技)
---	--	---------------------------------

6 成果と課題



- ・ 共通のめあてを全体で確認し、既習事項から個人のめあてを選ばせる予定だったが、説明不足により、配列のポイント（共通のめあて）から個人のめあてを選んでいる児童がいた。個人のめあては掲示してある既習事項から選ぶように指示をすべきだった。



- ・ 練習用紙を自作する活動はとてもよかった。共通のめあて、個人のめあてを達成するための練習用紙を工夫して生き生きと作っていた。クーピーで書くと、書きやすくて良かった。



- ・漢字どうしの大きさの違う字を提示し、比較検討させることで、「記」は「日」より画数が多いので大きく書くことに気づかせることができた。ただ、画数が少ない「日」は太く書くことを、第1時におさえておけばよかった。



- ・自己評価をしたあと、グループ評価をした。グループ評価では、自分のめあて、自作した練習用紙の説明をしてから評価してもらうという流れが良かった。自分のめあてに対し、友だちからほめてもらい、とても満足そうにしていた。

- ・試し書きとまとめ書きを並べて掲示したり、ワークシートで硬筆の変化を並べて書いたりすることで、自己の伸びを実感することができていた。

高学年の成果と課題

○基礎・基本を重視した取り組みについて

- ・「中と外の部分の組み立て方」のパターンを掲示することで、基礎・基本が明確になり、視覚的に理解することができた。「たれの中心より中の部分の中心が右にずれる」ということを毛筆で理解し、硬筆にも生かすという意識が高まった。
- ・「書写用語カード」の掲示物を作成することで、低学年から系統的に書写用語が使えるようになってきた。高学年では、ペアやグループで評価をする時に書写用語を使って評価することができた。
- ・「点画ピース」を利用することで、文字の組み立て方、ゆずりあい、点画のつながりが意識できるようになった。自分で操作した文字と手本を比べることで、課題をつかみやすくし、ポイントが明確になり有効であった。
- ・「いろいろな大きさの文字」を利用することで、画数の少ない字と画数の多い字のつり合いを考えさせた。児童は半紙の上で、組み合わせを考えることで、画数の少ない字を小さく書くことを理解し、さらに、紙面に対する文字の大きさも考えることができた。

○主体的な学習にするための取り組みについて

- ・自分のめあてを持たせるために「既習事項をまとめた掲示物」を作成した。その中から自分のめあてを選ぶことで、より主体的な学習になった。しかし共通のめあてのポイントが多い場合、さらに自分のめあてを選ばせると、ポイントが多くなりめあてがあいまいになってしまうので、検討が必要である。
- ・前時のまとめ書きに共通のめあてのポイント（中心線・余白など）を書き込むことで、よりポイントが明確になり、主体的な学習にすることができた。
- ・「かご書き」「骨書き」「始筆の位置のみ」「字形の一部」「外形」の練習用紙から自分のめあてにあった練習用紙を選ぶことができるようにした。児童は、自己の課題を

解決するために主体的に練習していくことができた。しかし、練習用紙を選ぶときに、何を基準に選ぶかを明確にしておく必要があった。

- ・「練習用紙を自作」することは、とても有効であった。ただ、練習用紙を自作する前に練習用紙を作る基準を明確にしておかなければならないと感じた。6年生では、自分のめあて、共通のめあてを達成するために意欲的に練習用紙を作ることができていた。また、半紙に書きやすくするためにクーピーを使ったのがとても有効だった。

○自己の伸びを感じることができる評価の取り組みについて

- ・毛筆の「試し書き」と「まとめ書き」を並べて掲示することで、自己の伸びを感じることができた。友だちの字と比べるのではなく、自分の字を比べることで、ポイントを見る目を養うことができた。
- ・単元の始めと終わりに硬筆による「試し書き」と「まとめ書き」を行い、比較検討することで達成感を味わうことができた。そして、毛筆で学んだ字のポイントを日常でも生かすことができるようになった。
- ・ペアやグループで評価をすることで、自分では気づくことができなかった伸びを実感することができた。6年生では、「自分のめあて、自作の練習用紙を発表し、友だちに評価してもらう」という流れが良かった。グループに番号（1～4）をつけ順番に評価することで、スムーズに行えた。

○生活に生かすための取り組み

- ・単元のまとめの活動として、学習した字形を整えるポイントの関連のある漢字を既習漢字表から見つけることで、日常化を図ることができた。

Ⅱ 研究の実践

生活に生かす

(1) 授業研究部の取り組み

○ 書写学習を生かす他教科・他領域の学習活動

文字を書く基礎となる書写の学習は、国語科だけではなく、他教科や総合的な学習の時間における学習の基盤となる。その書写の能力を日常生活や学習活動に生かすことができるようにしていくことが重要であると考えます。

個人カルテとして、一人一人の実態を把握したとき、「常に丁寧に書くことができる。」という項目で△の児童の割合が少ないという結果であった。教師による観察でも書写の時間は丁寧に書いているが、他の教科のノートや連絡帳になると雑な子が多いという実態であった。指導においても、ポスターや新聞作りなど内容にばかり目を向け、書写の時間の学習事項を押さえ、活用させることが十分であったとはいえない。

そこで、書写学習を生かすためには、どのような単元作りが考えられるのか話し合い、二つの書写授業のスタイルを考えた。そして、国語科や他教科・他領域のどんな活動と関連させて行うことができるかを一覧表にまとめた。

書写授業の二つのスタイル

○ 技能学習中心の授業スタイル

(書写から他領域、他教科へ)

系統的な書写技能の学習



各技能を生かす書く活動の場面設定による応用学習
手紙を書く・記録文を書くなど

○ 言語活動中心の授業スタイル

(他領域、他教科から書写へ)

国語授業の中での言語活動例の学習
新聞を書く・報告文を書くなど



そこで必要とされる
書写技能の学習

書写学習を生かす他教科・他領域の学習活動

	書写的内容 学習指導要領国語〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 (2)を中心に	国語科における書写 学習を生かす言語活動的内容 学習指導要領B「書くこと」「言語活動例」 の内容を中心に	書写学習を生かす各 教科の書く活動	書写学習を生かす特別活動
低 学 年	○姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ○点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。 書く速さ（視写）：10分で150字～200字	・想像したことなどを文章に書くこと。 ・経験したことを報告する文章、観察したことを記録する文章などを書くこと。 ・身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。 ・紹介したいことをメモにまとめたり文章に書いたりすること。 ・伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。	・図や式に表し、説明する活動。（算） ・見つける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動を行う中で、自分の思いを言葉や絵などで表現する活動。（生活）	人権週間 給食週間 委員会活動 米来っ子フェスティバル
中 学 年	○文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。 ○漢字や仮名の大きさ配列に注意して書くこと。 ○点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して、筆圧などに注意して書くこと。 書く速さ（視写）：10分で250字～300字	・身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。 ・疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。 ・収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。 ・目的に合わせて依頼状、案内状、札状などの手紙を書くこと。	・計算の仕方を考え、説明する活動。（算） ・面積の求め方を考え、説明する活動。（算） ・見学時に見たことや聞いたことをメモする活動。（社） ・調べたことや観察、実験したこと、それから考えたことをまとめる活動。（表現活動例 新聞、絵、紙芝居、パンフレット、ポスター等）（社・理） ・探求活動などによってわかったことや考えたことを相手意識や目的意識を明確にして作文やポスタ	1年生を迎える会 ふれあい読書 6年生を送る会 案内状（運動会や学習発表会）

			一などにまとめる活動。 (総合)	
高 学 年	○用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。 ○目的に応じて使用する筆記具を選び、その特長を生かして書くこと。 ○毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。 書く速さ（視写）：10分で320字～350字	・経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句を作ったり物語や随筆などを書いたりすること。 ・自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。 ・事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。	・計算の仕方を考え、説明する活動。 (算) ・面積の求め方を考え、説明する活動。 (算) ・図形の性質を帰納的に考え説明したり、演繹的に考え説明したりする活動。 (算) ・見学時に見たことや聞いたことをメモする活動。(社) ・調べたことや観察・実験したこと、それらから考えたことをまとめる活動。 (表現活動例 新聞、レポート、表、カード、ポスター等) (社・理) ・探求活動などによってわかったことや考えたことを相手意識や目的意識を明確にして作文やポスターなどにまとめる。 (総合)	

(2) 【実践事例 6 年】

第 6 学年 国語科（書写）学習指導案

平成 25 年 11 月 20 日（水） 第 5 校時

1 単元名

「米来っ子フェスティバル」のポスターをつくろう

2 単元目標

- 横書きの書き方へ関心を高め、より読みやすく書こうとしている。（関・意・態）
- 適切な文字の大きさや余白のとり方、筆記用具の選択ができる。（思考・判断）
- 目的に応じた書き方や筆記用具の工夫について理解し、文字の大きさや位置を考え、整えて書くことができる。（知識・理解・技能）
- 学習や日常生活のなかで横書きをするときに、学習した内容を生かすことができる。（書写の日常化）

3 指導上の立場

(1) 単元について

本単元は、横書きの書き方についての既習事項についてさらに深く考え、技能を高めていくねらいがある。横書きは、児童の日常生活や学習活動のなかで大半を占めている書き方である。よって、この単元で学んだ成果をすぐに、日常の場面で活用できることに大きな価値がある。

本単元では、学習発表会の資料作りを例に紙面の構成や文字の大きさ、配列を決めて書くことを学ぶ。そのことを総合的な学習の時間に取り組んだ「日本文化体験」のポスターや特別活動として行う児童集会「米来っ子フェスティバル」のポスター作りに生かしていきたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童（21名）は、落ち着いて書写の学習に取り組んでいる。また、ポイントを意識して意欲的に練習に取り組んでいる。しかし、学習したことを日常の書字活動に生かしている児童は少ない。書写の事前調査では、基本的な姿勢や鉛筆の持ち方ができていない児童が多いことと用紙に対する文字の大きさに課題があることが分かった。

6年生になって児童は、本単元との関わりのある学習として、白紙に縦書きで配列を整えて書く学習をしている。この学習で余白の取り方や均等に中心線を薄く引いてから書くことを学んでいる。また、手書き文字と活字の印象の違いや、筆記用具による印象の違い、活字どうしの書体による印象の違いを話し合う学習をしてきている。

総合的な学習の時間に行った「日本文化体験」のポスター作りから、横書きについてつぎのような実態があることが分かった。

(%)

横書きのときに意識すること	できる	できない
文字の大きさを変えてる	9 0	1 0
筆記用具を変えている	4 0	6 0
余白を考えて書いている	3 5	6 5
項目によって位置をそろえて書いている	6 0	4 0
罫線を薄く引いて曲がらないように書いている	0	1 0 0
罫線は引いていないがまっすぐ書けている	6 0	4 0
全体のレイアウトを考えバランスよく書いている	6 0	4 0

この結果から、本単元では罫線を引いて下書きをすることを指導し、筆記用具や文字の大きさを考えさせ、読み手に分かりやすいポスターが作れるようにしていきたい。

(3) 研究テーマとの関連

本校の研究主題である『基礎・基本をふまえて、生き生きと学ぶ子どもの育成～自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写学習～』に迫るために次のような工夫をしていきたい。

○主体的に学び、日常化の図れる工夫

特別活動「米来っ子フェスティバル」との合科的な単元にする。

○横書きの基礎基本が分かる題材提示

2種類の横書きポスターを比較検討させる。

○横書きの基礎基本が身につく手立て

既習事項の確認表を作成し指導すべきことを明確にする。

チェックシートを活用して学習課題をきちんとつかませて活動させる。

○伸びの実感できる自己評価と相互評価

チェックシートによる自己評価とグループによる相互評価を行う。

4 単元計画（全6時間）

第一次（特別活動）

第1・2時 米来っ子フェスティバルの計画を立てる。

第3時 ポスターに書く内容を決める。

第二次（書写）

第1時 横書きの効果的な書き方を理解し、下書きをする。（本時）

第2・3時 下書きを仕上げ、筆記用具を選んでポスターを作る。

5 本時案（第二次第1時）

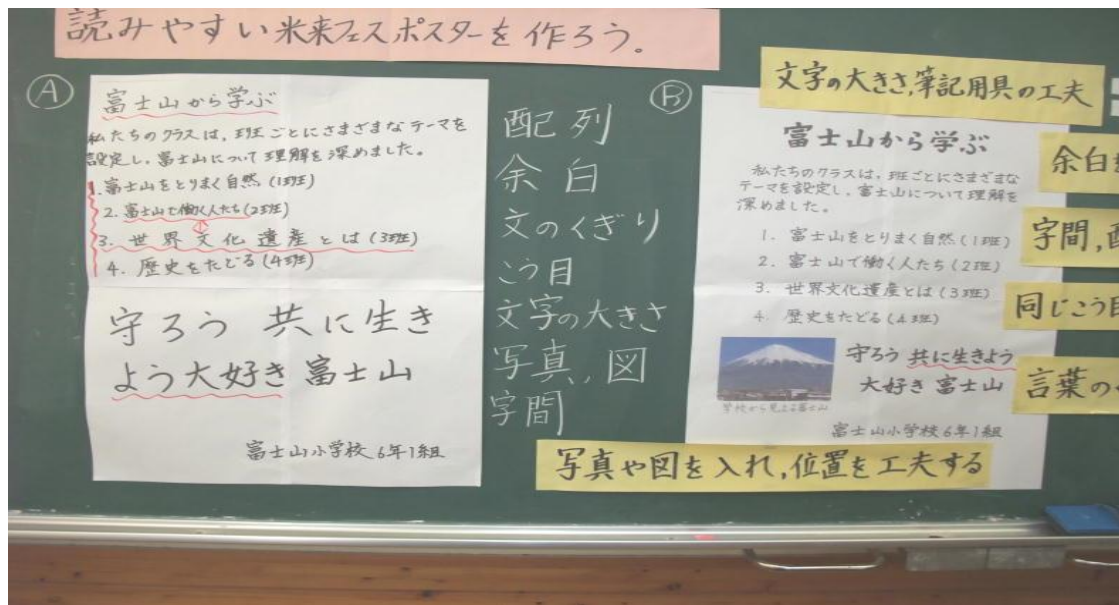
目標	目的に応じた効果的な横書きの書き方を理解し、字の大きさや位置を考え、整えて書くことができる。	
学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 学習のめあてを確認する。	○児童集会「米来っ子フェスティバル」で、企画した店により多くの児童に来てもらうため、ポスター作りを確認する。 ○読みやすく、興味をもってもらえるポスター作りを行うこと、そのためにより効果的なポスターの書き方の学習をしていくことを伝える。	○ポイントを進んで見つけることができたか。 (関・意・態)
2 課題をつかむ。	読みやすい「米来っ子フェスティバル」のポスターを作ろう ○2つのポスターを掲示し、どちらが読みやすく興味がもてるか話し合うことで、横書きで書くときのポイントがつかめるようにする。 (確認するポイント) ・タイトルなど文字の大きさを変えて書く。 ・筆記用具を変えて書く。	

3 下書きをする。 4 まとめをする。	・ 同じ項目はそろえて書く。 ・ 字間や配列に気をつけて書く。 ・ 言葉のくぎりでまとまりをつけて書く。 ・ 余白を意識して書く。 ・ 写真，図を入れて書く。 ○「日本文化体験」で書いた自分のポスターとポイントを比較させることで自分の課題がもてるようにする。 ○チェックシートを用意し，比較しやすくする。 ○名前カードを掲示したポイントの横に貼らせることで各自の課題を共有できるようにする。 ○ワークシートを用意しておきポスターに書き込む内容については事前に考えさせておく。 ○必要な罫線を引かせることで，余白を意識し，項目ごとにそろえて真っ直ぐ書けるようにする。 ○タイトルやキャッチコピーは文字数を表す円を描かせることで文字の大きさや配列を考えて書けるようにする。 ○正しい姿勢と鉛筆の持ち方ができるように全体への声かけや机間指導を行う。 ○課題に応じて整えて書けている児童をしっかり称揚し意欲的に練習に取り組めるようにする。 ○グループごとに下書きの相互評価をする。 ○次時は下書きの続きを行い，筆記用具を選んでポスターを仕上げることを伝える。	○課題に応じて整えて字を書くことができたか。 (技)
-----------------------------------	---	--

6 成果と課題

- ・ 本単元は，特別活動の「米来フェスティバル」のポスターを書くことを目的としていたので児童がより意欲的に取り組めた。また，総合的な学習の時間に作成した日本文化体験のポスターを活用したことにより自分の学習課題を明確につかませることができた。
- ・ 既習事項の確認表を作成したことで，6 学年で指導しておかないといけないことがよく分かった。また，6 学年までにそれぞれの学年でどのような事柄をおさえていかないといけないか確認できた。今後は，表を活用し各学年で指導すべき事柄を意識した授業をしていくことで，より基礎・基本が確実に定着していくと考える。
- ・ 2 種類のポスターを比較させたことで，横書きで書くときのポイントをつかみやすくなることができた。また，チェックシートを作成したことで，自分の課題を明確にしポスターづくりに臨むことができた。また，自己評価や友達のよくなったところを見つけたりする相互評価の際に有効であった。
- ・ 「余白」「罫線」「字間」「配列」「行間」といった書写用語を使いながら説明する力については本単元の中では活用できるようになってきたが，日常的に使えるように今後も引き続き意図的に使用していく必要がある。
- ・ 事前にポスターに書く内容や簡単なレイアウト図をワークシートに書かせていたので本時の活動がスムーズに進んだ。
- ・ タイトルやキャッチコピーを少し大きく書く手立てとして文字数に応じて○印を書かせ

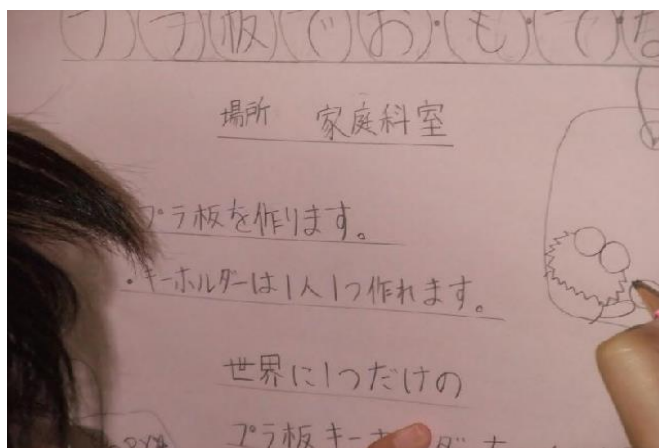
る方法を紹介したが、児童は○の中に文字を収めようとするので、文字が小さくなってしまった。また、初めて○を使ったので間隔や大きさがなかなかつかめず、かえって時間がかかってしまう児童がいた。配列を整えて大きく字を書くためにマス目の入った用紙を用意するなどの工夫が必要な児童がいた。



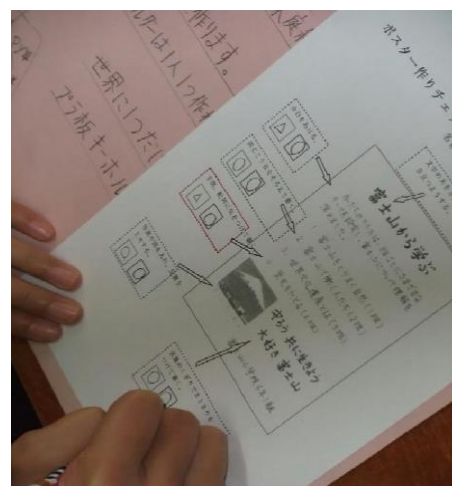
〈横書きで書くポイント〉



〈日本文化体験〉



〈横罫線を引いて〉



〈チェックシート〉

【実践事例 たいよう学級】

第 6 学年 国語科（書写）学習指導案

平成 26 年 6 月 19 日（木） 第 2 校時

1 単元名 俳句を作って短冊に書こう

2 単元目標（書写の時間）

○文字どうしの大きさ，行の中心と余白の取り方に気をつけて書こうとしている。

（関心・意欲・態度）

○短冊に書くのに適した筆記用具を選択し，余白の取り方を考えながら書くことができる。

（思考・判断）

○文字の大きさや行の中心，余白の取り方を理解し，配列よく書くことができる。

（知識・理解・技能）

○常に用紙や目的に応じて適切な筆記具を考えたり，余白の取り方を意識したりすることができる。

（書写の日常化）

3 指導上の立場

（1）単元について

本単元では，小学校学習指導要領国語科「書くこと」の言語活動例アにおける「俳句」を作ることを通して，「書くこと」の指導事項オ，カ及び「書写」の指導事項ア，イに関する書く力の育成を図る。

日常的には，川柳などで五・七・五の形式による言語表現を多く見聞きしている児童ではあるが，ここでは，伝統的な表現文化としての俳句を学習する。日本語の響きや文語の調子に親しむのに最適であり，創作にも取り組みやすい。そして，俳句の創作活動の一環として、短冊に書写することを行う。これは伝統的な俳句作りの一連の流れを追体験させることである。また，短冊全体の大きさとの関係に注意し，自作の俳句を構成している文字の大きさや文字列などに気を配って書写することによって、自分の創作世界を豊かにする喜びを味わうことができると考えた。

（2）児童の実態

本学級の児童は，5年生1名，6年生1名である。二人とも文字を書くことはあまり好きではないが，書写の時間は正しい姿勢で集中して書くことができるようになってきた。他の教科でも丁寧に書こうとしている姿も増えてきた。縦書きでも横書きでも罫線をはみ出すことなく書くことができている。

今までに、中心をそろえること，平仮名と漢字の文字の大きさが違うこと，余白の取り方については学習してきているが，用紙の大きさや目的に合わせて文字の大きさを変えたり，筆記具を選んだりするのは難しい。また，罫線のない白紙の用紙に，行の中心をそろえて書いたり，余白を考えて書いたりすることも今一步である。そこで，短冊の色紙に清書して，自分の作品を作る活動を通して，意欲的に用紙全体との関係に注意し，文字の大きさや配列を決めて書くことができるようにしたい。

（3）研究テーマとの関連

本校の研究主題である『基礎・基本をふまえて，生き生きと学ぶ子どもの育成ー自己の伸びを実感でき，生活に生かす書写学習ー』に迫るために次のような工夫をしていき

たい。

○基礎基本を身につけさせる工夫

- ・鉛筆，ボールペン，フェルトペン，筆ペンの中から選んで書いた試し書きと短冊に書家が書いた俳句の文字と比べることによって，俳句に適した筆記具を選ぶことができるようにする。
- ・書家が短冊に書いた俳句と悪い例を比べることによって基準を見つけることができるようにする。
- ・行の中心，配列を意識するためにそれらを示した練習用紙を用意する。

○主体的に学ぶ工夫

白紙の練習用紙に書いたものを自己批評できるようにするために中心線と外形の入った透明シートを用意しておく。

○日常化を図る工夫

- ・自分の俳句の作品を作るという意識を高めるために短冊の色紙に清書する。
- ・消すことのできない筆記具を用いる場合，中心線を鉛筆で書く，下書きを鉛筆で書く，文字列の枠を利用して書くなどの方法があることを知り，日常でも利用しようとする意識を高める。

4 指導計画（全5時間）

第一次（国語4時間）

第1時 いろいろな俳句を音読し，鑑賞する。

第2時 俳句の表現上の特徴を確かめる。

第3・4時

- ・夏の言葉でイメージマップを作る。
- ・イメージマップをもとに季語から情景のイメージを拡張，俳句を作る。

第二次（書写1時間）

第1時 自分の俳句を短冊に書く。・・・・・・（本時）

5 本時案（第二次第1時）

目標	○文字の大きさと行の中心，余白の取り方に気をつけて，自分の俳句を短冊に書くことができる。	
学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 本時の学習のめあてをつかむ。	○俳句の鑑賞の方法として，音声表現に加えて，短冊への揮毫による文字表現があることを知らせ，短冊に書くことを伝える。	
(1) 試し書きをする。	○俳句にはどんな筆記具がよいか考えさせるために，鉛筆，ボールペン，フェルトペン，筆ペンの中から筆記具を選び，試し書きをする。 ○いろいろな筆記具で書いた文字の資料を用意し，参考にできるようにする。	
(2) 短冊への書き方を考える。	○試し書きと俳句が短冊に書いた俳句を比べることによって，使う筆記具や短冊に配列に気をつけて	○使う筆記具や短冊に配列に気

をつけて書く基準を見つけることができたか。

)

- 文字の大きさと行の中心,余白の取り方に気をつけて自分の俳句を短冊へ書いて,俳句の作品を作ろう。

○行の中心, 余白の取り方を示した練習用紙で練習し, 配列を意識できるようにする。

○練習用紙で自信がついたら、白紙の短冊で練習する。

5年生B児

めあてにあった教具で自己批評できるように助言し、直すためにもう1枚練習するか相談する。しない場合は、まとめ書きで気をつけて書くよう確認し、まとめ書きを指示する。

○まとめ書きとして、短冊の色紙に清書し、俳句の作品として仕上げる。

○文字の大きさと行の中心，余白の取り方に気をつけて書けたか

(技能・知識・
理解)

○試し書きとまとめ書きを比べて、自己評価、相互評価をして振り返りカードに記入し発表することによって、互いに認め合い、自己の伸びを感じることができるようにする。

	6 年生A児	5 年生B児	
	自分の評価が低いときは、友だちの評価を大きく取り上げ、しっかり褒めるようにする。	自分の評価が低いときは納得させるように教師がしっかりと褒めるようにする。	

6 成果と課題

学習の導入で「自分の俳句を作り，短冊の色紙に書いて作品として仕上げる」というゴールの姿を示すことによって，意欲的に俳句を作ったり，短冊の色紙に書いたりすることができた。単元としては，最後まで意欲的に取り組むことができたので，成功であった。ゴールの大切さを感じた。ゴールの姿が子どもたちにとって魅力のあるものであることが重要であると思った。

短冊に書くときの基準を見つけさせるとき，試し書きとよい例を比べて見つけさせようとした。文字の中心をそろえることにはすぐに気づくことができた。ひらがなと漢字の大きさについては，比べた例があまり差がなかったのですぐにはわからなかったようだが，既習事項なので今までに習ったことを思い出させるとすぐに気づくことができた。余白については，短冊にちょうどよい文字の大きさにすればよい余白になるということを悪い例を示しながら説明し，理解できるようにした。子どもたちの力で見つけさせるには，もっとよい例を提示する必要があると思った。



練習用紙は，数種類用意した（中心線を書いたものや余白がわかるように文章の枠を書いたものなど）。配列を意識させるためなので，2，3枚練習したら白紙の練習用紙で練習させた。なかなかすぐに上手に書けないことには気づくことができた。

まとめ書きは短冊の色紙に挑戦した。消すことのできない筆記用具で書くときはどうすればよいかを話し合った。中心線や枠を書くことは学習しているので覚えていた。鉛筆で下書きをしてもいいことは教えた。自分の選んだ方法で筆ペンを使って清書をした。配列よく書けた自分の字に満足していた。このような方法が，今後生かされるには，様々な場面で活用していく必要があると思われる。

（３）各学年の実践

【国語科と関連した単元の実践 １年生】

単元名 「はがきをかこう」

単元目標

- お世話になっている上級生にお礼のはがきを書こうとする。（関心）
- はがきの書き方を知り、お礼の気持ちを文にすることができる。（書く）
- 書いた下書きをもとに、ていねいに清書することができる。（書写）

単元計画と書写の位置づけ

第一次（４時間）

- ・縦割り班で上級生にしてもらったことや遊んでもらったことを思い出させ、その時の気持ちを発表する。
- ・だれに、どんな「ありがとう」の気持ちを届けるかを考えて決める。
- ・はがきの書き方を知る。
- ・「お礼の言葉」や「メッセージ」の文を考えて下書きをする。
- ・自分の書いた下書きを読み返し、間違いがないか分かりにくい文はないか推敲する。

第二次（１時間）

- ・ていねいに清書する。

第三次（２時間）

- ・できたはがきの感想を発表し合う。
- ・家の人にもはがきを書く。

実践記録

入学してからこれまでに、上級生に優しくしてもらったことや、遊んでもらったことを想起させ、その時のうれしかった気持ちや楽しかったことを思い出させた。そして、上級生に対して「ありがとう」の気持ちをつたえようという意欲を高めた。

次に縦割り班で上級生にどんなことをしてもらったのかを具体的に思い出させる中で、はがきを出したい相手を決め、書く活動に入った。

はがきの例文を参考に、はがきの基本的な書き方を知り、「相手の名前（～さんへ）」「お礼の言葉」「メッセージ」「自分の名前」を段落ごとに書くことを確認した。また、自分の書いた文はどんな場合でも読み返して間違いや気づいたところを直すことも確認した。

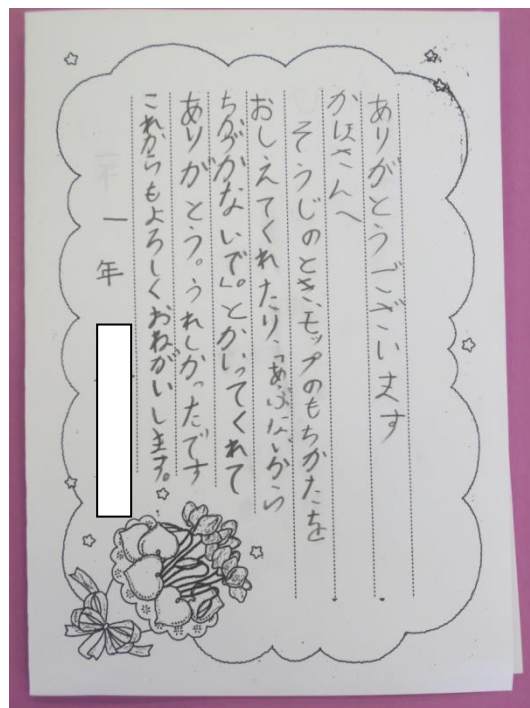
書く活動では、小さい文字を書くことが苦手な児童もいるため、罫線を入れた大きめの用紙を使用し、下書きをした。うれしかった気持ちを上級生に伝えるというめあてを意識してていねいに書くことができた。

評価では、ていねいに書けていることや文字の大きさ・色つけなどきれいにできていることを称賛することで家の人にも書きたいという意欲につなげていくことができた。そして、家の人にも「ありがとう」の気持ちを伝えるはがきを横書きでていねいに書くことができた。

3学期の給食週間で調理員さんへの「お礼のてがみ」を書くときにも、この単元で学習したことを生かすことができた。



ピン・ピタ・グーを意識し、紙をしっかり押さえて書きました。



六年生へのはがき

【国語科と関連した単元の実践 2年生】

単元名 「こんなものがほしいなあ」

単元目標

- 「こんなものがほしいなあ」という思いを相手に伝えたいという意欲を持って、主体的に学習に取り組もうとする。 (関心)
- 知らせたいことが相手によく伝わるように、順序よく話すことができるようにするとともに話し手の思いや願いに共感しながら聞き感想を持つことができる。 (聞く・話す)
- 相手に分かりやすく話すための構成メモを書いたり、紹介するポスターの説明がよく分かるように丁寧できれいな字を書いたりすることができる。 (書写)
- メモの作り方や取り方がわかりメモすることができる。 (書く)

単元計画と書写の位置づけ

第一次（つかむ 2時間）

- ・「こんなものがほしいなあ」の展覧会を開いてほかの学年や先生達に見てもらおうという単元のゴールを示し、分かりやすく丁寧な字を書く意欲を持つ。
- ・自分で「ほしいな。」と思う物の絵を書き説明書きも添えて説明する。

第二次（準備する 4時間）

- ・例文からメモの項目とその内容、順序を理解し、具体的に自分のメモをイメージする。

第三次（書写 1時間）

- ・自分の「ほしいもの」のポスターの説明をするための発表メモを教科書の例を参考に作る。

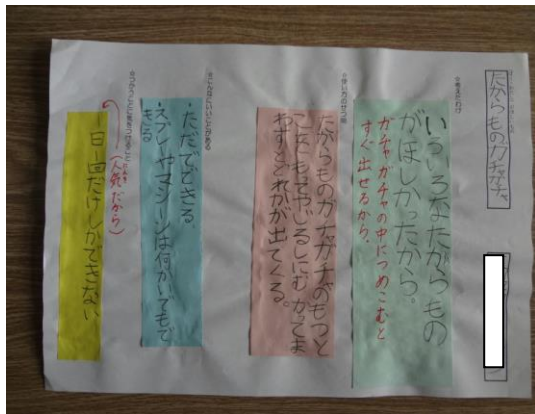
第三次（友達と伝え合う 2時間）

- ・友達の発表を聞き、「もっと知りたいな」「こんなこともできるといいな」を付箋紙に書き、相手に伝える。
- ・友達に書いてもらった意見を参考に、自分の発表メモを見直す。

第四次（伝え合う 2時間）

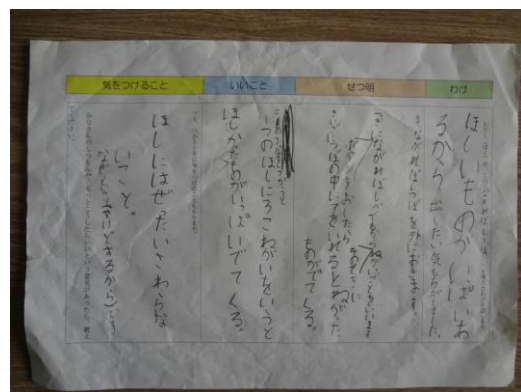
- ・1年生や先生につたえたい内容がよく伝わるように絵を示しながら「声の大きさ」「間」「速さ」「発音」などに気をつけて発表する。
- ・発表を終えて感想を書き、次の発表につなげる。

実践記録



「ほしいものの名前」「考えたわけ」「つかい方の説明」「こんないいことがある」「つかうときに気をつけること」の項目について丁寧な字で分かりやすく書くように指導した。字の大きさにも気をつけて書く児童もいた。

自分の「ほしいもの」の説明をするための発表メモを教科書の例を参考にして各自メモを書いた。たった1つの自分オリジナルの「ほしいもの」の説明がうまく相手に伝わるためにはどのように書いたら良いか文章を考えながらメモを作った。



相手によく分かるようにまずポスターを描いた。・・・絵の部分「考えたわけ」「つかい方の説明」「こんないいことがある」「つかうときに気をつけること」などをポスターの下に書き、よりポスターに興味を持ってもらえるよう丁寧な字で清書する気持ちで書くことを指導した。

・・・説明の部分

【国語科と関連した単元の実践 3年生】

単元名 「見てきたことを新聞にまとめよう」

単元目標

- 取材活動や新聞作りに関心を持ち，調べたいことや調べたことをメモに取ったりカードにまとめたりすることで，工夫して記事を書こうとする。（関心）
- メモをもとに視覚化したり具体化したりするために，文章を図解したり写真などを解説したりしながら記事を書くことができる。（書く）
- 割り付けや見出しの立て方を工夫して，新聞にまとめることができる。（書く）
- 聞きたいことや調べたいことをインタビューしたり，メモを取りながら聞いたりすることができる。（話す・聞く）
- 文字の大きさと配列について理解し，気をつけて書くことができる。（書写）

単元計画と書写の位置づけ

第一次（1時間）

- ・教科書を読んで学習の流れをとらえ，見通しを持つ。
- ・新聞（一般紙，小学生新聞）を見て，新聞のしくみを知る。

第二次（1時間）

- ・社会科学習における「スーパーマーケットの見学」「工場見学」と関連させて，新聞にまとめることを知り，意欲を持つ。
- ・見学に向けての準備をする。（何を知りたいかを書き出す。）
- ・インタビューのしかたや箇条書きのしかた，メモの取り方を確認する。

第三次（3時間）

- ・メモをもとに，伝えたいことを工夫して，新聞にまとめる。
- ・見学メモをもとに，見学したことや，調べたことを「わりつけカード」に書く。
- ・パンフレットやインターネットを活用し，補足したりふくらませたい情報についてくわしく調べたりする。
- ・わりつけカードに見出しをつける。
- ・わりつけカードを使って，新聞のわりつけを決める。
- ・見学メモ，わりつけカードをもとに，表現方法を工夫して記事にまとめる。
- ・絵や図，写真の使い方を考える。

第四次（1時間）

- ・文字の大きさと配列について話し合い，新聞を清書する。（マス有り）

第五次（1時間）

- ・できあがった新聞を読み合い，良いところや工夫したところを交流する。

実践記録

社会科「くらしをささえるまちではたらく人びと」の学習で、自分の家の一週間の買い物調べをし、スーパーマーケットには「なぜ多くの人が訪れるのか」という課題を持って学習していった。この社会科の学習と関連させて国語科の「見てきたことを新聞にまとめよう」という単元で、スーパーマーケットの見学でわかったことを新聞にまとめ、おうちのひとに読んでもらおうということにした。

まず、学習材を読んで、新聞のしくみを知り、インタビューの仕方、メモの取り方を学習した。次に、見学の準備として、社会科の学習をもとに、インタビュー内容（一日にどのくらいの人があるか、なぜたくさんの人があるのか、スーパーマーケットのうらがわはどうなっているのかなど）を決め、インタビューカードの準備をした。

見学後、社会科の学習と関連させて、わかったことを中心に「わりつけカード（ふせん）」に書いて紙にはっていった。調べきれなかったり、聞けなかったりした内容（全国に何店舗あるのかなど）はインターネットで調べた。そして、自分の記事にあった写真を選んだ。

読みやすい新聞と、読みにくい新聞を示し、話し合い、「文字の大きさと配列に気を付けて書くこと」を確認した。書いた紙は、罫線が入っている紙にした。

おうちの人に読んでもらい、一言感想を書いてもらうことで、励みになった児童もいた。



〈見学し、質問している様子〉



〈できあがった新聞〉

【国語科・総合的な学習の時間と 関連した単元の実践 4年生】

単元名 手紙を書こうー依頼状とお礼状ー

単元目標

- 大事なことを落とさないように注意しながら、依頼状やお礼状を書こうとしている。 (関心)
- 相手や目的に合わせて依頼状やお礼状を書くことができる。 (書く)
- 文字の大きさと配列について理解して、気をつけて書くことができる。 (書写)

単元計画と書写の位置づけ

第一次（1時間）

- ・総合的な学習の時間における「金屋用水の見学」の依頼状とお礼状を書くことへの意欲を持つ。
- ・学習材を読み、依頼状とお礼状の書き方を調べ書き方を理解する。

第二次（1時間）＜依頼状の下描きをする＞

- ・依頼したい用件と相手を確認する。
- ・用件をメモにまとめ書く事柄を整理する。
- ・依頼状の形式に沿って手紙を書く。
- ・封筒の宛名の書き方について知る。

第三次（1時間）

- ・前時に書いた依頼状で大事なことが落ちていないか読み返す。
- ・文字の大きさや行の中心に気をつけて、依頼状を清書する。

第四次（1時間）＜お礼状＞

- ・伝えたいお礼の内容を決める。
- ・内容をメモにまとめ書く事柄を整理する。
- ・お礼状の形式に沿って手紙を書く。

第五次（1時間）

- ・前時に書いたお礼状で大事なことが落ちていないか読み返す。
- ・文字の大きさや行の中心に気をつけて、お礼状を清書する。

実践記録

社会科「地域の発展につくした人々」の学習と関連させて、総合的な学習の時間に地域にある金屋用水について調べることにした。資料を使ってなぜ必要でどのようにしてつくられたのかを学習した後、現在の金屋用水の管理をしている人に、見学の案内と管理の様子について教えてもらうことにした。

そこで国語科の「手紙を書こうー依頼状とお礼状ー」という単元で金屋用水の見学の依頼状とお礼状を書くことにした。

まず、学習材を読んで、依頼状とお礼状の書き方を学習した。次に、依頼状で伝えたいことを

- ①どのような学習をしているのか
- ②どんなことを知りたいのか
- ③知りたい理由

としてをメモにまとめた。次に、お礼状の組み立ての「はじめ」「中」「終わり」の形式で下書きをした。季節のあいさつについては、考えた文章を発表し合い、自分らしい表現の工夫をさせた。また、例文の中で活用できる文言は積極的に活用し、丁寧な言葉遣いで書くことを習得させた。書けたら友達と交換して、誤字や脱字がないか、必要なことが正しく書けているかを確認合った。

見学後、金屋用水の案内と質問に答えてもらったことに対してのお礼状を書いた。依頼状の時と同様に「はじめ」「中」「終わり」の形式で下書きをした。「季節のあいさつ・相手の様子をたずねる」という「はじめ」の部分に続いて、「中」は、見学で分かったことや感想を書くことを確認した。

依頼状・お礼状のどちらも、下書きの段階で、「はじめ」「中」「終わり」「日付」「自分の名前」「相手の名前」で改行するという手紙の形式や書き出しの位置を確認した。清書は書写の時間に行い、「漢字は、仮名より少し大きく書く。」ことと「行の中心に気をつけて書く。」ことを目標にして取り組んだ。下書きに中心線を引いて中心がとれているか友達どうしで確認し、ずれている文字には、特に気を付けることを確認した。中心線を描いた下敷きを敷いて清書した。中心からずれやすい児童も意識して書くことができた。



【社会科と関連した単元の実践 5年生】

単元名 「わたしたちの暮らしを支える情報」

単元目標

- 必要な情報をメモに取り、配列に気をつけて書こうとしている。 (関心)
- 必要に応じて、写真や図を使って自分の考えをまとめることができる。 (書く)
- 書写の時間に習ったメモの取り方を実践し、立った状態で必要なメモをとることができる。 (書写)
- 字の大きさや配列に気をつけて新聞にまとめることができる。 (書写)

単元計画と書写の位置づけ

第一次 (1時間)

- ・書く目的にふさわしい書き方やメモの取り方について知る。
- ・見学に行く前に自分が知りたいことをメモにまとめる。

第二次 (2時間)

- ・質問メモを持って見学へ行く。

第三次 (1時間)

- ・見学メモを整理し、構成や文を考える。

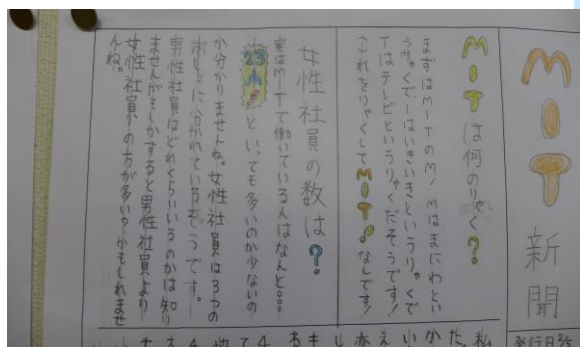
第四次 (2時間)

- ・第三次を参考にしながら新聞にまとめる。
- ・配列に気をつけて丁寧に書く。

実践記録

見学へ行く前に「目的に合わせて書く-メモの取り方-」の学習をした。メモをとる際の姿勢、筆圧、書き留める内容（数字、専門的な言葉）や、方法（画数の多い漢字は平仮名を使う、文末は省略をする、消しゴムは使わず二重線を引くなど）を確認した。

実際に社会の教科書の工場の人の話を読み上げ、立った状態でメモをとった。そのあと内容を確認する質問をすることで、どんな情報が必要だったのか、メモするのはどんな言葉がいいかを確認することができた。練習をしていたので、見学先でも立ったまま、必要な情報を短くメモをすることができたようだった。



また1年を通して中心線、漢字とひらがなの大きさに気をつけてきたので、進んで薄く中心線を引いている児童もいた。また見出しに関しては大きな字で書いたり色をつけたりすることでわかりやすい新聞がかけていた。

書写で学習したことを生かせるよう計画的に行うことで、より見やすい新聞が書けたようだった。

【国語科と関連した単元の実践 6年】

単元名 「卒業文集をつくろう」

単元目標

- 効果的な構成や表現を考えて書こうとしている。（関心・意欲・態度）
- 目的に合わせて、効果的な構成や表現を考えて書くことができる。（書く）
- 習った漢字を使い、表記に気をつけて書くことができる。（言語事項）
- 1年間の学習を振り返り、文字の形や大きさ、組み立て方などに気をつけて、字形を整えて書くことができる。（書写）

単元計画と書写の位置づけ

第一次（1時間）

- ・文集づくりの計画を立てる。

第二次（6時間）

- ・小学校生活の思い出作文や詩などの構成を考え、下書きをする。
- ・書いた文を読み返し、構成や記述について推敲し、清書する。

第三次（1時間）

- ・文集に載せたい座右の銘を決める。

第四次（書写2時間）

- 点画の種類や字形を整えるためのポイントを確認する。
- 配列を整えるためのポイントを確認する。
- 自分が決めた座右の銘の練習をして、清書をする。

第五次（1時間）

- 完成した文集を読み、お互いの作品について感想の交換をする。

実践記録

- 「卒業文集をつくろう」という作文単元を計画し進めていった。今までの卒業生が作った卒業文集を紹介することで、自分たちも思い出に残る文集を作りたいという意識をもって取り組むことができた。
- 思い出作文では、6年間の出来事を写真で振り返ることで、書きたいことを明確にして取り組むことができた。また、ワークシートを用意したことで、「はじめ—中—おわり」のはっきりとした構成で下書きすることができた。
- 文集に載せる詩づくりでは、今までの卒業生の作品を紹介することで、イメージをふくらませ、伝えたい気持ちのよく分かる詩を作っていくことができた。
- 文集に載せる座右の銘を決めるときに、インターネットを活用したことで、今まで知らなかった四字熟語など座右の銘に使える言葉が多くあることに気づくことができた。
- 座右の銘は毛筆で半紙に書くことを伝えておいたが、画数の多い文字を選び、整えて書くのに苦労している児童がいた。
- 字形を整えるためのポイントや配列を整えるためのポイントを振り返り、自分の決め

た文字のどこに活用できるかを考える時間を確保してから練習していった。そのことで、書くめあてを明確にして取り組ませることができた。

○今回は全員毛筆で半紙に書くとしたが、筆記用具を自分で選び、言葉にあったイラストを入れるなどの工夫をした作品づくりでもよかった。その際には罫線を引いて書くなど書写で学習したことを生かした作品づくりをさせていきたい。



【5年生の国語科と関連した単元の実践 たいよう】

単元名 「地域の紹介をしよう」

単元目標

- 紹介する目的や意図を意識し、紹介文を書こうとしている。
(関心・意欲・態度)
- 目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して整理し、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるようにして書くことができる。(書く)
- 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解することができる。
(言語)
- 文字の大きさと配列について理解し、気をつけて書くことができる。(書写)

単元計画と書写の位置づけ

第一次(1時間)

- ・学習材を通読し、単元の学習の見通しを持つ。
- ・紹介する相手や目的・意図を意識して学習計画を立てる。

第二次(4時間)

- ・自分の発信したい相手や目的・意図を設定し、取材活動を行う。
- ・取材したものを整理し、構成メモにまとめるとともに、根拠となる資料を準備する。
- ・構成メモをもとに、構成表を作る。
- ・図や表を活用し、根拠を明確にしながら記述する。(下書き)

第三次(1時間)

- ・文字の大きさと配列について話し合い、紹介文を丁寧に書く。(清書)

第四次(1時間)

- ・分かりやすく伝えるための表現の工夫、写真や絵・図の効果的な使い方や文字の大きさと配列の整え方などについて、自己評価や相互評価をする。
- ・自分の伝えたい相手に発信をする。

実践記録

学習材を読んで、地域の紹介文を作る学習であることを知り、富士宮市のように真庭市でも自慢できる場所やよいところはないか話し合った。湯原温泉や蒜山高原などいろいろ挙げていったが、真庭市がバイオマスについて力を入れていることを昨年度の見学学習で教えてもらったことを思い出し、これからの真庭市の中心になるバイオマスについて紹介しようということになった。

見学で学習したことを思い出しながら、インターネットで情報を調べ、必要な内容をまとめていった。学習材を参考にして、必要な写真や図を選び、構成表を作った。自分が紹介したいことを読み手にはっきりと伝えることができることを目標にして下書きをしていった。読み手に何を知ってほしいのかどのようにしてほしいのかなど尋ねながら

いっしょに考えていった。

書き上げた紹介文が推敲できたので、書写の時間を取り、5年生の書写の学習のまとめとして「配列よく書こう」という目標で、清書をすることにした。配列の良い例、悪い例を比べながら話合った。文字の大きさや中心、行間、字間に気をつけて書けばよいことに気付き、透明シートに罫線を濃く描いて下敷きを作り、中心線として利用して書くと、文字の大小、中心に気をつけることができた。

評価の時間には、文字の大きさや配列についても注目するよう声かけをし、励みになるようにした。また、お家の人にも見てもらい、良いところを見つけてもらって、励みになるようにした。特にお家の人のお励ましはうれしかったようである。



(4) 環境部の取り組み

①書写コーナー

低・中・高学年のオープンスペースに書写コーナーを設置し、児童がいつでも文字の練習ができるようにしている。

低学年は、フェルトペンで練習し、書いた文字を職員の誰かに見てもらう。良く書けている所を認められ、花丸をつけてもらうことで、次への意欲付けになっている。

中・高学年は、水書用紙を使って毛筆の練習ができるようにしている。学習した文字のポイントを示した手本を見て練習してる姿がよく見られる。習字道具の準備をしなくても毛筆で書くことができ、手軽に筆使いの練習ができる。



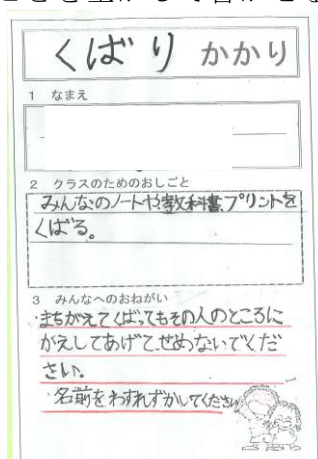
〈中学年 書写コーナー〉

〈低学年 書写コーナー〉

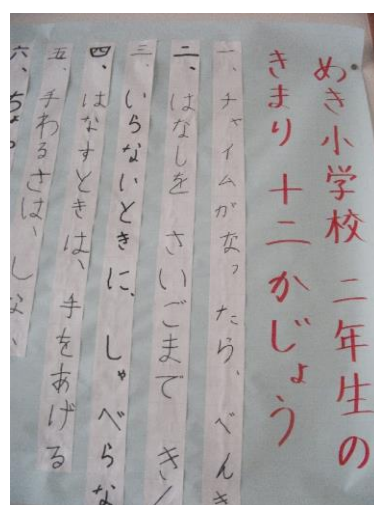
②学習したことを生かした掲示物の作成

パソコンを使った掲示物が増えてきていたが、手書きの文字による掲示物を心がけるようにしている。

学級目標や学級のきまり、係活動などの掲示物を作成する時も、書写の学習で学んだことを生かして書かせるようにしている。



〈補助線を引いて真っ直ぐ書く〉



〈マス目を利用して文字の大きさを整える〉



〈マス目の下敷きを使って書いた氏名カード〉

おすすめの1さつ！

書名	スイカのすい子
書いた人	奥原弘美 作
あった場所	エスパス図書館

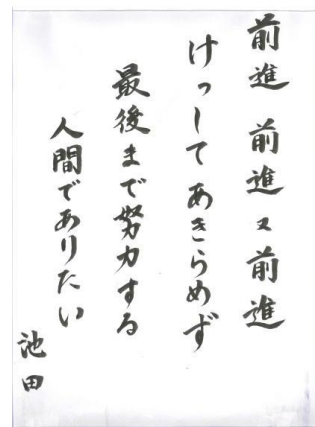
おかあさんのおなかから、なんとスイカが生まれました。そのスイカの名前は、すい子です。わたしは、スイカが生まれたのでびっくりしました。すい子の兄ちゃんの名前は、ほくです。夏休みに、すい子にわへ出してあげるとフコフコころがア...

すすめる人

〈横書きの学習をして、下線を書いた下敷きを利用して真っ直ぐ書く〉



〈学級目標〉



〈今月の一言〉



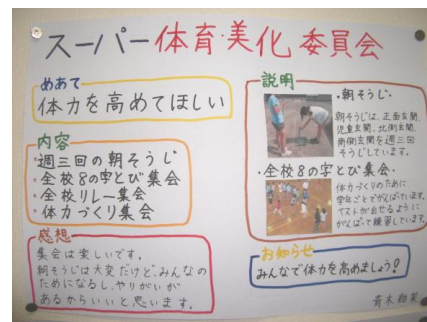
委員会の掲示板に、集会活動の告知や取り組みの紹介をかけたポスターなどを掲示している。

「筆記用具を工夫する」「下線を引いて、真っ直ぐに書く」「文字の大きさを工夫する」「項目はそろえて書く」ということを意識して書けるようになってきた。

上学年の作成したものを見て、下学年の児童はポスターなどのかき方を学ぶことができている。



〈企画運営委員会のポスター〉



〈体育・美化委員会のポスター〉

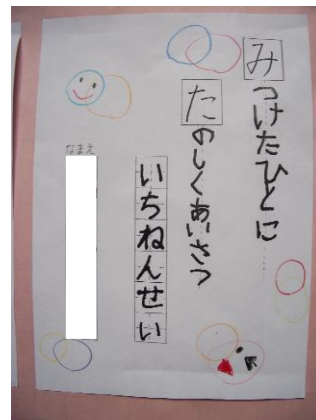
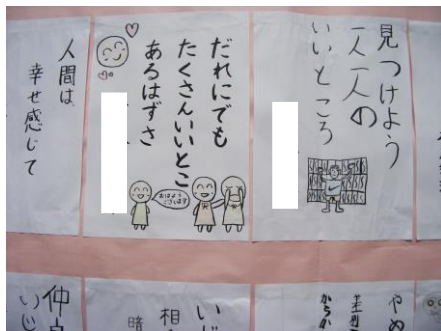
③行事の中に生かす

運動会の団旗を毛筆で書いたり，スローガンや表現運動で着る衣装に毛筆の字体を取り入れたりしたことで，文字の表現方法を考えたり，筆文字のもつ力強さを感じたりすることができた。



人権週間や給食週間には，標語作りに取り組んだ。

作った標語は，文字の大きさを整えることや真っ直ぐに書くための工夫をしながら清書し，児童玄関前に掲示した。低・中学年はフェルトペンで，高学年は筆ペンを使って書いた。人権意識の向上や食育の啓発につながると同時に，文字を見る目を養う場にもなった。



〈高学年は，筆ペンをつかって標語を書く〉

〈文字の大きさや中心を意識できるように工夫したワークシートを使って〉

6年生は，修学旅行の思い出を筆ペンを使って巻物にまとめた。

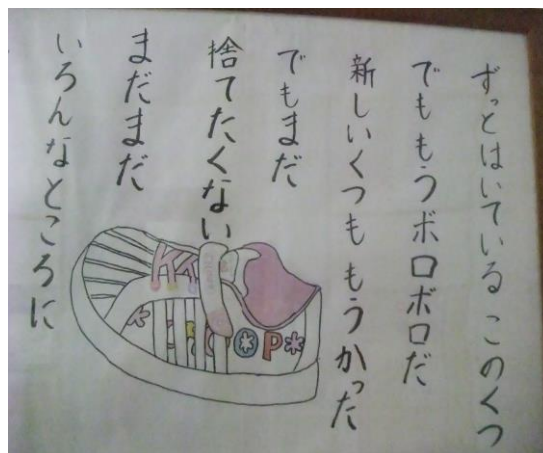
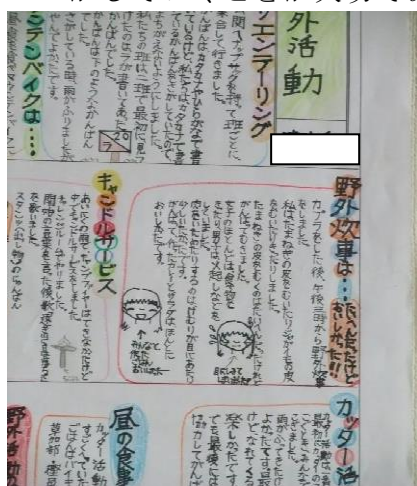
巻物という和風なものには，毛筆の字体が似合うことや，日頃使い慣れた鉛筆やボールペン，サインペンよりも，書写で学んだ筆使いを意識して書きやすく，しかも，墨を付けるという手間が省ける点で便利な筆記用具であることを知ることができた。



(5) 成果と課題

書写の時間と他の学習活動を関連させた単元作りを1年間に3回程度は行うようにしようと年間計画を立てて、取り組んだ。書写学習を生かす他教科・他領域の学習活動を一覧表にまとめたことで、どの教科のどんな活動と関連させればよいか、また、基礎・基本を重視するための指導項目の一覧表により、押さえないと行けない基礎・基本を把握し、単元作りに生かすことができた。

国語科を中心にして、他の教科の中で、目的意識や相手意識を持って取りくんだ結果、子どもたちも変化してきた。手紙やポスター、新聞など中心や文字の大きさ、配列などに気をつけて、字形を整えて書こうとしている姿がはっきりと見られるようになった。今後もいろいろな書く活動の中で、書写学習を生かしていくことが大切である



〈6年図工 一番のお気に入りの運動靴〉

〈5年総合 野外活動新聞〉

また、〇〇週間と関連させて標語を作ったり、委員会活動の紹介や委員会活動の掲示物を書いたりするときにも書写学習で学習したことを意識して書くように促してきた結果、みんなに見てもらうという目的意識を持って書くことができるようになってきている。

水書コーナーや書写コーナーは、始めたときは子どもたちにたいへんな人気で、いろいろな絵や文字を書いていたが、日にちがたつとコーナーに来る子がだんだん減っていった。筆使いに慣れるにはとても有効な場であると考えるので、活用の仕方をもっと工夫する必要がある。

「人に見てもらう。」「相手に感謝の気持ちを伝える。」などの場合は、丁寧に気をつけて書くことができるようになってきたが、日頃のノートやプリント、連絡帳などは今一步の児童がいる。また、もう少し早く書くことができるようになってほしい児童もいる。今後も書く活動を大切にして、育てていきたい。

Ⅲ 研究の成果と 今後の課題

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

【基礎・基本の重視】

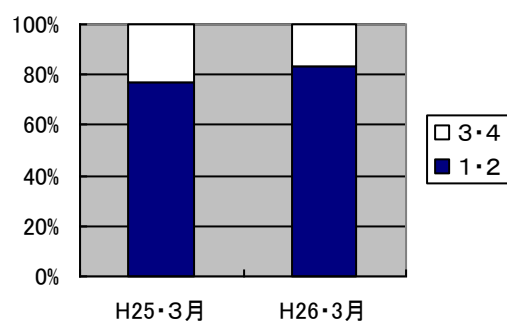
各学年における書写の基礎・基本を明らかにし、一覧表にまとめ、系統性を考えて年間指導計画を作成した。そして、毎時間の書写の時間には、正しい姿勢・鉛筆の持ち方、点画等の基礎・基本に気をつけて指導した。また、教材・教具を研究し、外形シートや点画ピースなどを取り入れ、文字の基準を明確につかむことができるようにした。

毛筆では、穂先の動きを捉えるために動画や朱墨を活用したり、筆圧を数値化したりするなど技術面でも理解しやすいように工夫した。これらのことを通して、書写の基礎・基本の知識の定着や技能の向上が見られた。また、姿勢や鉛筆の持ち方に気をつけようとする意識も高まってきている。今後も系統性のある基礎・基本を重視して指導していきたい。教材・教具については、さらに有効なものを研究していきたい。

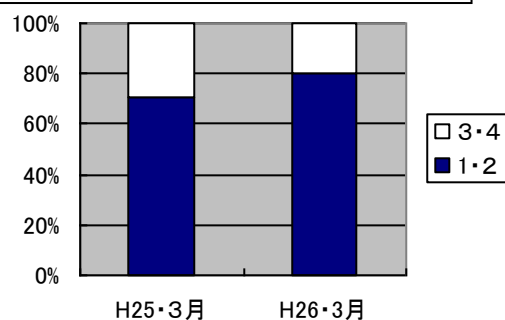
書写アンケート

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 とてもあてはまる | 2 少しあてはまる |
| 3 あまりあてはまらない | 4 まったくあてはまらない |

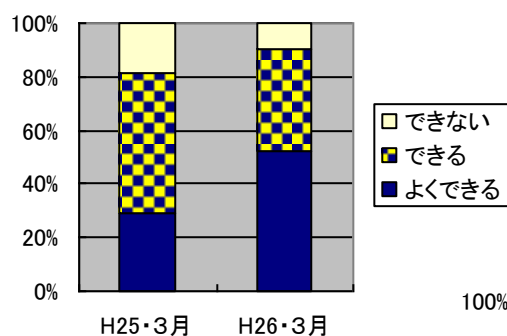
はねやとめなどに気をつけて書いているか（書写アンケート）



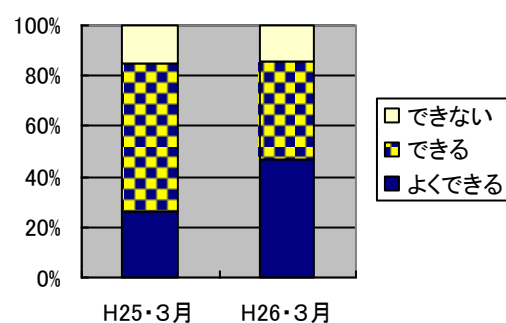
姿勢に気をつけて書いている（書写アンケート）



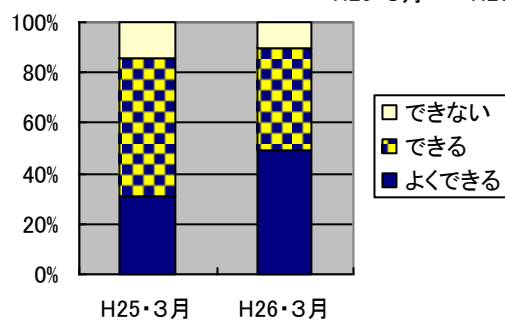
文字の大きさが適度である（個人カルテ）



文字の中心をそろえて書く（個人カルテ）



字間が適度である（個人カルテ）

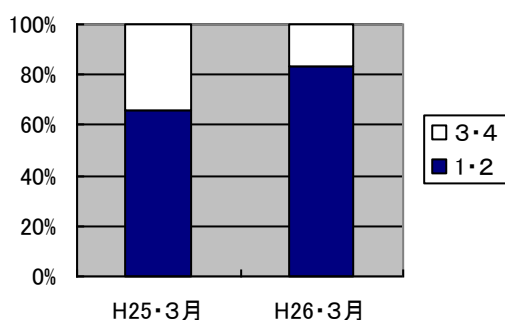


【主体的な学習】

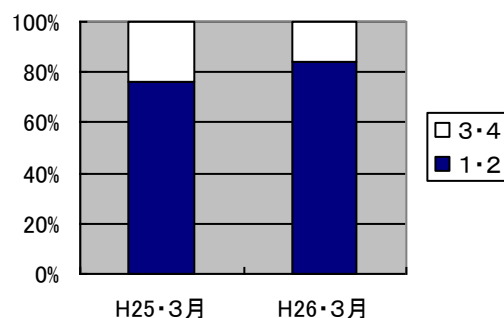
課題解決学習を取り入れ、学習の流れをパターン化したことによって、児童が見通しを持って学習できるようになった。自分のめあてを持ち、それに沿った練習用紙を選んだり、自分で練習用紙を作成したりして主体的に取り組めるようになってきた。また、練習の途中で、教具などを使って自己批評したり友だちと相互批評したりして学び合う姿も見られるようになってきた。

「共通のめあて」と「個人のめあて」をそれぞれ考えて、学習に取り組ませたが、「共通のめあて」だけの方がポイントを集中して練習できたと考えられる児童もいた。めあての持たせ方は、個人の技能に応じて考えていく必要もある。また、練習する時間を十分確保するために早くめあてをつかむことができるように工夫していかなければいけない。

書写の時間は自分のめあてを持って字を書いている
(書写アンケート)



大筆を使って字を書くことが好きである
(書写アンケート)



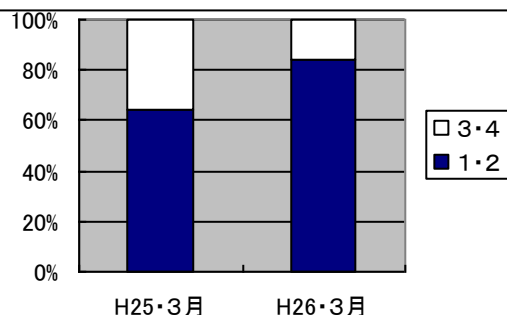
【自己の伸びを感じる評価の工夫】

試し書きやまとめ書きを比べて自己評価することによって、自分の伸びが実感できるようになった。振り返りカードなど評価しやすいように工夫したのも効果的であった。また、ペアやグループで相互評価することで自分が気づけなかった伸びを感じることであったりめあてに沿ったアドバイスができていたりして自信や意欲につながった。

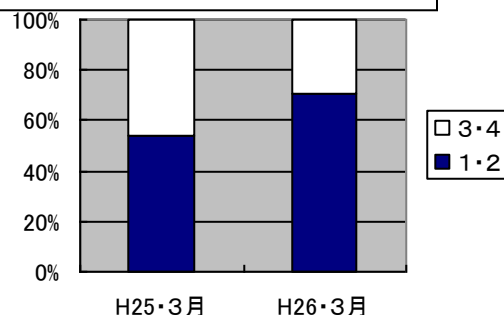
まとめ書きをして評価するまでに必要な活動が多く、何かと評価の時間が少なくなるという現状があったので、授業の導入に前時の評価活動を位置づけるなど単元構成の工夫をした。余裕を持って評価することができたが、今後も評価の時間を十分に確保するために単元構成を工夫していかなければならない。

低学年の児童も自己評価・相互評価を行っている。めあてに沿った評価が少しずつできるようになってきた。中学年・高学年へとつないでいくために、さらにめあてに沿った評価をする力を養うとともに思いを適切に友だちに伝える力も養っていききたい。

書写の時間に友達の子の良いところを見つけている
(書写アンケート)



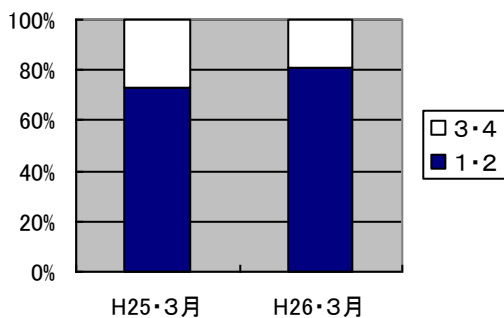
自分の字はきれいだと思う
(書写アンケート)



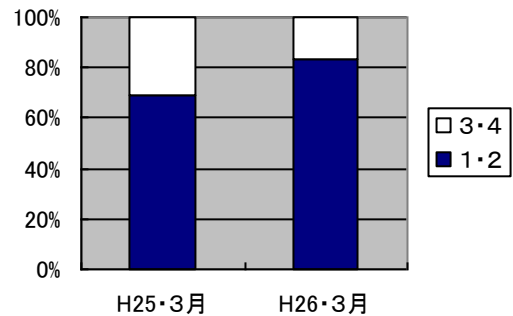
【生活に生かす工夫】

他教科・領域と関連させた単元作りをしていくことにより、他教科等の書く活動に書写の時間に学習したことを意識して生かそうとするようになった。また、教師も文字の基礎・基本を意識して声かけをするようになり、児童も正しく書くようになってきている。今後も効果的な単元作りをして書写で学んだ力を伸ばしていきたい。

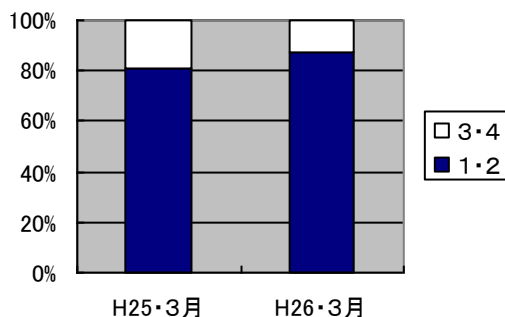
書写の時間に学んだことを意識して字を書いている
(書写アンケート)



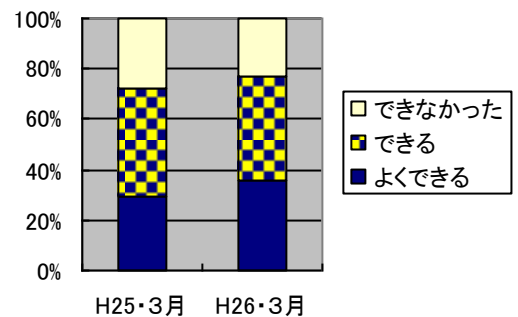
ノートと手紙では書く速さをか
えている (書写アンケート)



いろいろなペンを使ってポスターや新聞を書くのが好きである
(書写アンケート)



常に丁寧に書くことができる
(個人カルテ)



【学力向上に向けて】

他教科でも、書写学習の時間の取り組みをもとに「学習規律の徹底」「基礎・基本の重視」「主体的な学習」「自分に自信を持つことができるようになる評価」を工夫した授業に取り組み、児童の学力向上をめざしてきた。学習規律が定着し、姿勢に気をつけて、集中して学習できるようになった。また、相手意識、目的意識を持って文章を書くようになり、文字を正しく書くだけでなく内容もしっかり考えるようになった。

基礎的・基本的な学力は少しずつ向上してきている。今後も研究してきたことを継続し、児童の学力を保障していきたい。

お わ り に

本校では平成25・26年度岡山県習字教育研究会及び平成26年度真庭市学力向上推進事業の指定を受け「基礎・基本をふまえて、生き生きと学ぶ子どもの育成 一自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写教育」を主題として、研究を進めてきました。

研究を進めるにあたっては「基礎・基本の重視」「課題解決の学習過程や評価の工夫」「生活に生かす工夫」を研究の重点内容として、生き生きと主体的に学ぶ児童の育成を目指してきました。

研究を重ね、実践を繰り返す中で、一心に書字活動に取り組む児童の姿が見られました。自己の課題を明確に持った一人一人が、集団として課題追求に向かう教室の空気を創り出していました。また書写の基礎・基本をふまえた自己評価や相互評価を生き生きと行う姿も見られました。どの子も誇らしげに「字形がよくなった。」「配列に気をつけて書けた。」などとふり返り、友だちからの評価にうれしそうに耳を傾けていました。そして書写学習で学んだ事柄を他教科・他領域の学習やふだんのノート整理などに生かそうとする態度も見られるようになってきました。

このような児童の姿は、職員がコミュニケーションを深め、チームとして授業研究や教材づくりに熱心に取り組んできた結果だと考えます。同時に、実践を積み重ね、研究が進む中で、新たな課題も見えてきました。私たちの研究はまだ途についたばかりともいえます。今後も多くの方々にご指導をいただきながら、さらに研究を進めていきたいと考えます。

終わりにになりましたが、ご多用の中、熱心なご指導をいただきました講師の先生をはじめ、本校の研究を支えてくださった関係各位、保護者・地域の皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご指導・ご支援をお願いいたします。

研 究 同 人

池田 晃	中川 互	小林 力	岡崎 晃治	植田 祥子
------	------	------	-------	-------

小林 恵美	川上まどか	吉原亜佐美	絹田 隼基	菱川 恭子
-------	-------	-------	-------	-------

原 七海	片岡 大士			
------	-------	--	--	--

<旧研究同人>

直原 徳賢	清友 公子	岸元 律子	田邊 潤子	小倉 敏子
-------	-------	-------	-------	-------

久宗 恵子	原田 朋子	小西 啓太		
-------	-------	-------	--	--

IV 資 料

基礎基本を重視するための指導項目一覧表

個人カルテ

書写アンケート

基礎・基本を重視するための指導項目一覧表

資料 1

	児童に習得させたい書写にかかわる技能・学習用語	縦書きの指導	横書きの指導	書写への関心
1年	とめ はね はらい むすび かたち おれ おりかえし そり まがり てん へや 小さく書く字 のぼすしるし 「 」 まる(。) てん(,) かぎ(「」) 文しょう かく ひらがな かたかな かん字 ひつじゅん ました したじき 空書き かくのとちゅう		○行の下 の罫線にそろえて書く。 ○促音・拗音は小さく、下の線にそろえて書く。 ○句読点も下の線にそろえて書く。 ○数字は算用数字で書く。 メッセージカード	がっこうのもじさがし 象形文字
2年	かくの長さ と 方向 画の方向 おれの方向 そりの方向 点の方向 たて画 横画 右はらい 左はらい 字形 文字の中心 間かく 画の交わり方 画のつきかた おくりがな 筆記ようぐ	年賀状 ○住所や名前は書き出しの位置を押さえる。 ○文字の大きさは、 自分の住所・自分の名前・相手の住所 相手の名前と大きくなる。 ○文面は中心に気をつけて書く。	○横罫のときは、下線にそろえて書く。 ○横罫を書くとき、両端を少しあける ○罫線のない白紙に書くときは下に横罫線の紙を敷いてそれをめやすに書く。 ○書き出しの位置を項目ごとにそろえて書くと、読みやすい。 招待状	町の文字さがし 象形文字 文字の組み立て方
3年	毛筆 硬筆 すみ すずり(うみ, りく) ぶんちん ぼくえき 半紙 長半紙 筆(大筆, 小筆) 筆をおろす ほ先 筆の軸 筆使い 筆を運ぶ 筆圧(強い, 弱い) 始筆 送筆 終筆 書き文字と活字 組み立て 整え方 コンマ(,) 試し書き まとめ書き	配列を整えて書く ○漢字と仮名の大きさに気をつける。 ○行の中心に中心線を引く。 ○行頭は1ます下げる。 原稿用紙の書き方 ○題名の位置 ○名前の書き方 ○漢字と仮名の大きさ ○句読点の書き方と位置 はがき ○行の中心をそろえて書く。 ○上下左右の余白をとることもふれておく。 ○行頭は、1字分あける。 ○箇条書きは、行頭をそろえる。 ○宛名の面における文字の大きさは、相手の名前や住所を大きく書くことで相手を大切に思う気持ちを示している。	原稿用紙の書き方 ○題名の位置 ○名前の書き方 ○漢字と仮名の大きさ ○句読点の書き方と位置 配列を整えて書く ○行の中心 ○文字と文字との間のあけ方 ○漢字は大きく、仮名は小さく書く。 ○点はコンマ(,)を使う。 ○強調したい言葉は、色を変えると目立つ。 ○注目させたい見出しは本文より大きめに書く。 ○罫線のない紙に横書きするとき、鉛筆で罫線を引いておくと真っ直ぐ書ける。 ○上下・左右の余白を考えて書く。 ○言葉の句切りに注意して書く。 読書カード・ 本のおび	筆の作り方 「書き文字」と「活字」のひみつをさがせ
4年	点画のつき方 配列 余白 外形 横の結び縦の結び か条書き 字間 へんにつくり 上下 左右 中と外 はば 高さ 報告文(題 筆者 見出し) 手紙(初めの挨拶 本文 終わりの挨拶 日付) ダッシュ(ー) 中点(・) 新聞(見出し リード コラム) 毛筆学習	配列を整えて書く ○文字の大小(漢字でも画数の小さい漢字は小さく書く) ○行の中心。 手紙 { 初めのあいさつ 本文 形式 終わりのあいさつ 日付 自分の名前 相手の名前	配列を整えて書く ○同じ項目どうしの見出しは、行頭をそろえて書く。 ○(1) (2) などの通し番号をつけたり、「●」などの同じ記号をつけ たりするとわかりやすい。 ○「字間」に気をつけて書く。 ○関連する文章の近くに図を置く 報告文・なかよし新聞	いろいろな書き方の工夫 日本の文字と文化

	へんとつくり（ゆずりあい） そり平仮名	封筒の宛名書き ・住所は右に寄りすぎないように書く。 ・名前は，文字と文字の間をあける。		
5年	ゆずり合い かい書と行書 行間 線と線とのつながり 書き出し 配列 毛筆の学習 筆順と字形 文字の組み立て方（左右と上下） （にようと中の部分） 漢字と仮名の大きさ 平仮名 配列	配列を整えて書く ○行の中心。 ○書き出しの位置は項目ごとにそろえる。 ○余白，字間，行間に気をつけて書く。	配列を整えて書く ○書く位置を考える。 ○筆記用具を工夫して書く。 ○文字が読みやすい色を使用する。 ○ペンを使って「縦画」「横画」の太さに差をつける。 校内掲示物・ポスター 目的に合わせて書く。 ○メモは，速く書く。 ・立って書くときの姿勢 ・鉛筆を軽く持って書く。 ・間違いは，二重線を引く。 ・要点は確実にメモする。 ・許容される書き方にふれる。	筆記用具を使いこなそう 世界の文字と日本の文字
6年	全体構成 キャッチコピー 割り付け 配列 文字の組み立て方（中と外） 毛筆学習 文字の組み立て方（へんとつくり） （たれと中の部分） 文字の大きさ（漢字と漢字） 点画のつながりと配列 小筆の使い方	配列を整えて書く。（白紙） ○行の中心の取り方。 ○行間のあけ方 ○余白の取り方 鉛筆で薄く中心線を引いてから書いてもよい。	用紙の大きさに対する文字の位置や大きさを考えて書く。 ○相手意識・目的意識をしっかり持つ。 ・伝える相手 ・目的 ・掲示場所 ○全体構成を考える。 ・タイトル 文字の大きさ，筆記用具などを工夫して目立つように。 ・箇条書き 同じ項目は，そろえて書くとわかりやすい。 ・写真や図 関連する内容の近くに置く。 説明の文は，文字を小さくする。 ・キャッチコピー ことばのくぎりでまとまりをつけて書く。 えんぴつで下書きをすると読みやすくなる。 学習発表資料	文字の旅 文字が記されてきたもの 文字の「かたち」で伝える 行書

個人カルテ記録表

年（資料 2）

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	
		① 手でノートや用紙を押さえて書く	② 目を三十センチぐらい離す	③ 足裏をピタツと床につける	④ 背筋をピンと伸ばす	⑤ 三本の指でバランスよく持つ	⑥ 筆圧が適度である	⑦ 文字の大きさが適度である	⑧ 字間が適度である	⑨ 文字の中心をそろえて書く	⑩ 正しい筆順で文字を書く	⑪ はねや止めなどに気をつけて書く	⑫ 常に丁寧に書くことができる	
1	A児	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	
2	B 児	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	
3	C 児	◎	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
4	D 児	◎	○	△	○	○	◎	○	○	○	◎	○	○	
5	E 児	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
6	F児	◎	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	
7	G児	◎	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	
8	H児	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	◎	◎	
9	I 児	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	
1 0	J 児	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
1 1	K児	○	○	△	△	○	○	○	○	○	◎	○	△	
1 2	L 児	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	◎	
1 3	M児	○	○	△	△	△	△	○	○	△	○	△	○	
1 4	N 児	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	

個人カルテ評価基準（資料 3）

項	目	◎ よくできる	○ できる	△ できない
姿勢	①手でノートや用紙を押さえて書く ②目を30センチぐらい離す ③足裏を床にピタッとつける ④背筋をピンと伸ばす	自然にできる (身についている)	声かけをすると5分以上できる	声かけをしても二分以内にすぐ崩れるかできない
鉛筆の持ち方	⑤親指，人差し指，中指でバランスよく持って書く	自然にできる (身についている)	声かけをすると5分以上できる	声かけをしても二分以内にすぐ崩れるかできない
文字	⑥筆圧が適度である（字が薄い）	適度な濃さである	8割ほどは適度な濃さである。	全体的に薄い
	⑦文字の大きさが適度である（マスや罫線からはみ出るほど大きい小さい）	ほとんど適度な大きさでかけている	8割ほど適度な大きさでかけている	はみ出たり小さすぎたりする文字が多い
	⑧字間が適度である。（あけすぎたところがない）	ほとんど適度な字間で書いている	8割ほどは，適度な字間で書いている	字間を空けすぎているところが多く，言葉になっていない。
	⑨文字の中心をそろえて書く。	ほとんど揃っている	8割揃っている	揃っていない部分が多い
	⑩正しい筆順で文字を書く。	全問正解	①～③全問正解	①～③の内間違っている
	⑪はね，止め，はらい，おれなどに気をつけて書く。	どの文字も気をつけて書いている	8割程度気をつけて書いている	気をつけていない字が多い
	⑫常に丁寧に書くことができる。（ノートの文字が雑である。）	国語ノートの文字がいつも丁寧である	8割程度丁寧である	雑なときが多い

①～⑤観察 ⑫国語ノート

⑥～⑪検査用紙（筆順5個＋書写教科書視写）

クラスカルテ表に記入

クラスカルテ（書写）（資料 4） 年

項 目		◎	○	△
姿勢	①手でノートや用紙を押さえて書く	1 6	4	0
	②目を 3 0 センチぐらい離す	3	1 0	7
	③足裏を床にピタッとつける	4	8	8
	④背筋をピンと伸ばす	2	1 8	0
鉛筆 の 持ち方	⑤親指，人差し指，中指でバランスよく持 って書く	9	3	8
文字	⑥筆圧が適度である（字が薄い）	1 3	4	3
	⑦文字の大きさが適度である（マスや罫線 からはみ出るほど大きい小さいすぎる）	2	1 3	5
	⑧字間が適度である。（あけすぎたところ がない）	5	1 5	0
	⑨文字の中心をそろえて書く。	3	1 7	0
	⑩正しい筆順で文字を書く。	1 2	8	0
	⑪はね，止め，はらい，おれなどに気をつ けて書く。	8	1 2	0
	⑫常に丁寧に書くことができる。（ノート の文字が雑である。）	3	1 3	4

よくできる◎ できる○ できない△

5 月の 特徴的な傾向 基本的な姿勢や鉛筆の持ち方ができていない児童が多い。 文字の大きさに課題がある。

短期目標（期間）	指導・支援	評価
○正しい姿勢と正しい鉛筆の持ち方ができるようにする。 ○適切な大きさで文字を書くことができるようにする。	・鉛筆の持ち方について一斉指導をする。 ・授業のはじめに（書く前に）姿勢の確認をする。 ・ノートの字の大きさを個別に指導していく。	・鉛筆を持つときの親指の位置に課題のある児童が多い。 ・姿勢の確認をすればよくなるが常には意識できていない。 ・ノートの字は全体的に整ってきている。

個人カルテ集計（資料５）

	① 手でノートや用紙を押さえて書く			② 目を三十センチぐらい離す			③ 足裏をピタッと床につける			④ 背筋をピンと伸ばす			⑤ 三本の指でバランスよく持つ			⑥ 筆圧が適度である		
	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△
H25・5月	69	26	5	13	73	14	10	55	35	11	70	19	18	58	24	49	33	18
H26・3月	73	24	3	20	70	10	27	56	17	25	62	13	44	38	18	50	30	20

	⑦ 文字の大きさが適度である			⑧ 字間が適度である			⑨ 文字の中心をそろえて書く			⑩ 正しい筆順で文字を書く			⑪ はねや止めなどに気をつけて書く			⑫ 常に丁寧に書くことができる		
	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△
H25・5月	29	52	19	31	55	14	26	59	15	52	37	11	30	47	23	29	43	28
H26・3月	52	38	10	49	41	10	47	39	14	46	46	8	33	45	22	36	41	23

書写アンケート集計（資料 6）

評価 1 とてもあてはまる 2 少しあてはまる
 3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

項 目	評価	実施月	%
①ペンやえんぴつで字を書くことは好きである	1	H25・3月	4 6
		H26・3月	4 2
	2	H25・3月	3 7
		H26・3月	4 0
	3	H25・3月	1 1
		H26・3月	1 5
	4	H25・3月	6
		H26・3月	3
②えんぴつを正しく持っている	1	H25・3月	3 2
		H26・3月	4 3
	2	H25・3月	4 6
		H26・3月	3 9
	3	H25・3月	1 4
		H26・3月	1 2
	4	H25・3月	8
		H26・3月	6
③しせいに気をつけて書いている	1	H25・3月	1 9
		H26・3月	2 4
	2	H25・3月	5 2
		H26・3月	5 6
	3	H25・3月	1 9
		H26・3月	1 6
	4	H25・3月	1 0
		H26・3月	4
④はねやとめなどに気をつけて書いている	1	H25・3月	3 5
		H26・3月	4 8
	2	H25・3月	4 2
		H26・3月	3 5
	3	H25・3月	1 7
		H26・3月	1 2
	4	H25・3月	6
		H26・3月	5
⑤筆順を正しくおぼえている	1	H25・3月	3 6
		H26・3月	4 3
	2	H25・3月	4 6
		H26・3月	4 3
	3	H25・3月	1 4
		H26・3月	1 0
	4	H25・3月	4
		H26・3月	4

項 目	評価	実施月	%
⑥ノートのマスや行におさまる字が書けている	1	H25・3月	5 4
		H26・3月	5 8
	2	H25・3月	2 7
		H26・3月	2 9
	3	H25・3月	1 1
		H26・3月	5
	4	H25・3月	8
		H26・3月	8
⑦漢字とひらがなの大きさに気をつけながら字を書いている	1	H25・3月	2 4
		H26・3月	3 7
	2	H25・3月	4 9
		H26・3月	4 5
	3	H25・3月	2 1
		H26・3月	1 6
	4	H25・3月	6
		H26・3月	2
⑧書写の時間が好きである	1	H25・3月	4 7
		H26・3月	4 0
	2	H25・3月	2 7
		H26・3月	3 6
	3	H25・3月	1 3
		H26・3月	1 6
	4	H25・3月	1 3
		H26・3月	8
⑨書写の時間はお手本をよく見て書いている	1	H25・3月	4 6
		H26・3月	6 4
	2	H25・3月	3 3
		H26・3月	3 0
	3	H25・3月	1 2
		H26・3月	1 2
	4	H25・3月	8
		H26・3月	4
⑩書写の時間は自分のめあてをもって字を書いている	1	H25・3月	2 2
		H26・3月	4 5
	2	H25・3月	4 4
		H26・3月	3 8
	3	H25・3月	2 2
		H26・3月	1 4
	4	H25・3月	1 2
		H26・3月	3

項 目	評 定	実施月	%
⑪書写の時間に友達の字のよいところを見つけている	1	H25・3月	2 7
		H26・3月	5 2
	2	H25・3月	3 7
		H26・3月	3 2
	3	H25・3月	1 8
		H26・3月	1 1
	4	H25・3月	1 8
		H26・3月	5
⑫書写の時間に学んだことを意識して字を書いている	1	H25・3月	3 3
		H26・3月	4 0
	2	H25・3月	4 0
		H26・3月	4 1
	3	H25・3月	1 9
		H26・3月	1 7
	4	H25・3月	8
		H26・3月	2
⑬毛筆で書くことは好きである	1	H25・3月	5 0
		H26・3月	4 5
	2	H25・3月	2 6
		H26・3月	3 7
	3	H25・3月	1 6
		H26・3月	1 1
	4	H25・3月	8
		H26・3月	7
⑭大筆を使って字を書くことが好きである	1	H25・3月	5 2
		H26・3月	5 7
	2	H25・3月	2 4
		H26・3月	2 7
	3	H25・3月	1 7
		H26・3月	8
	4	H25・3月	7
		H26・3月	8
⑮小筆を使って字を書くことが好きである	1	H25・3月	3 8
		H26・3月	3 2
	2	H25・3月	3 1
		H26・3月	3 9
	3	H25・3月	1 9
		H26・3月	1 5
	4	H25・3月	1 2
		H26・3月	1 4

項 目	評 定	実施月	%
⑯準備や後片付けをきちんとしている	1	H25・3月	6 7
		H26・3月	6 2
	2	H25・3月	1 4
		H26・3月	2 6
	3	H25・3月	1 3
		H26・3月	1 0
	4	H25・3月	6
		H26・3月	2
⑰ノートと手紙では書くはやさをかえている	1	H25・3月	3 3
		H26・3月	5 1
	2	H25・3月	3 6
		H26・3月	3 2
	3	H25・3月	2 1
		H26・3月	1 1
	4	H25・3月	1 0
		H26・3月	6
⑱いろいろなペンを使ってポスターや新聞を書くのが好きである	1	H25・3月	5 7
		H26・3月	6 2
	2	H25・3月	2 4
		H26・3月	2 5
	3	H25・3月	9
		H26・3月	7
	4	H25・3月	1 0
		H26・3月	6
⑲自分の字はきれいだと思う	1	H25・3月	2 1
		H26・3月	2 9
	2	H25・3月	3 3
		H26・3月	4 2
	3	H25・3月	2 1
		H26・3月	1 8
	4	H25・3月	2 5
		H26・3月	1 1